



**NHK** ことしの仕事

---

2024

# 2024 CONTENTS

「ことしの仕事」の発刊にあたって	01
NHK経営計画 2024-2026年度	02
2024年度の番組編成	
編成のポイント	06
総合テレビ(地上放送)	07
Eテレ(地上放送)	08
BS(衛星放送)	09
BSP4K(衛星放送)	10
BS8K(衛星放送)	10
ラジオ第1放送	11
ラジオ第2放送	11
FM放送	11
デジタルサービス	12
災害報道の体制と強化	14
海外取材網	15
国際放送	16
多様な地域社会への貢献	18
国際協力・国際貢献	19
公共放送を支える技術	20
技術研究・開発(放送技術研究所)	22
放送文化・調査研究(放送文化研究所)	23
視聴者とNHKの結びつき	24
受信料制度	28
予算と事業計画	30
運営としくみ	32
全国のNHK	37

※この資料は、原則として2024年4月末日時点の情報で制作しています。

## 「ことしの仕事」の発刊にあたって

ことし1月、NHKは2024年度から3か年の中期経営計画を発表し、究極の使命として、放送法で求められている「健全な民主主義の発達に資する」ことを掲げました。

激甚化する自然災害や混迷を深める国際秩序、フェイクニュースの拡散など課題が山積する中で、NHKには情報空間の健全性を確保し、平和で豊かに暮らせる社会の実現に寄与することが求められています。このため経営の基軸として2つの役割、つまり「情報空間の参照点」を提供すること、「信頼できる多元性確保」へ貢献することを掲げました。みなさまの“よりどころ”となる、正確で信頼できる社会の基本的な情報を提供するとともに、新聞や民間放送など多様なメディアと切磋琢磨しながら、民主主義の基盤である多角的な視点を確保できるよう貢献していきたく思います。また、コンテンツ戦略では6つの柱を掲げました。緊急報道から大型国際コンテンツまで、多様なコンテンツを提供することで、「より確かで深い情報を知りたい」「もっと日常が豊かになる番組を見たい」というみなさまからの高いご期待に真正面からお応えしていきたくと考えています。

来年2025年には、NHKの前身である社団法人東京放送局がラジオ放送を開始して100年という大きな節目を迎えます。私は、NHKが追求し続けている正しい報道、豊かな番組、世界に平和をといた公共的な価値は、次の100年も変わることのない普遍的なものだと確信しています。先日イギリスのBBCが、真実の追求、最良質のコンテンツ制作、そして人々をひとつに統合するという3つの役割に注力する将来方針を公表しましたが、メディアの本質を突き詰めたときに、洋の東西を問わず全く同じ結論に至ることを確認して、改めて意を強くしました。

私は、次の100年もNHKが公平・公正で確かな情報や豊かで良い番組・コンテンツを間断なく届け続け、視聴者・国民のみなさまの役に立つ存在であり続けたいと考えています。そして、健全な民主主義の発達に貢献し、日本、そして世界の人々が平和で豊かに暮らせる社会を実現したいと強く願っています。

今後とも、NHKへのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

2024年6月

日本放送協会

会長

稲葉延雄



## 究極の使命は、「健全な民主主義の発達に資する」こと(放送法第1条) 今、日本の公共放送(メディア)NHKに何が求められているのか

公共放送(メディア)をとりまく環境が大きく変化しています。

自然災害の激甚化が進むなか、視聴者・国民のみなさまの命と暮らしを守る緊急報道の重要性はこれまで以上に増えています。また、デジタル化の加速は社会の利便性を高めた一方、フェイクニュースのまん延で社会の混乱を招くなど、負の側面が課題となっています。“正確で信頼できる情報”への期待は、一層高まっています。

世界では、ロシアによるウクライナ侵攻をめぐって、政府から独立して公平公正な報道等を行い、「健全な民主主義の発達に資する」という公共放送の役割が再認識されています。

公共放送であるNHKも、情報空間の健全性を確保することで、平和で豊かに暮らせる社会を実現し、民主主義の発展に寄与することが求められています。

こうした経営環境のなかで、NHKは次の3か年において、2つの基軸をもとに公共放送の役割を果たしていきます。

ひとつは「**情報空間の参照点**」を提供することです。インターネット上で不確かな情報があふれるなか、視聴者・国民のみなさまにとっての“よりどころ”となる、正確で信頼できる社会の基本的な情報を提供したいと考えています。

もうひとつは「**信頼できる多元性確保**」に貢献することです。民主主義の基盤である多角的な視点を確保するために、情報空間において、伝統メディアが競い合いそれぞれの信頼性を高めることに寄与したいと考えています。

### 「情報空間の参照点」の提供

信頼できる基本的な情報を提供すること

### 「信頼できる多元性確保」への貢献

民主主義の基盤である多角的な視点

適切な資源管理とテクノロジーの力で、コンテンツの“質・量”を確保  
世界的インフレ、厳しい財政状況のなかでも、1割値下げした受信料額を堅持

## コンテンツ戦略 6つの柱

それぞれに目標を持って、視聴者・国民の「公共的価値」を実現

① デジタルと放送が連携して  
災害時になくてはならない命綱に

② “フェイク”の時代だからこそ  
顔の見える信頼のジャーナリズム

③ 民主主義の一翼を担い  
平和で持続可能な世界の構築に貢献

④ 世界で輝く  
良質な教育・幼児子どもコンテンツ

⑤ 未来を見つめ 人生を豊かにする  
教養・エンターテインメント

⑥ 幅広いジャンルと地域情報で  
多様性・多元性の実現

### 放送、デジタル、展開。すべてはコンテンツ起点で考える

～メディア(波)は削減し、コンテンツに集中(衛星、ラジオを整理) / 先端テクノロジーの活用でコンテンツ制作環境を高度化～

### ① デジタルと放送が連携して 災害時になくてはならない命綱に



自然災害の頻発・激甚化に対し、強みや特性を生かして  
「命と暮らしを守る」報道を深化

- ・「災害情報マップ」の展開
- ・データジャーナリズムの進化
- ・「情報棟」新システムの有効活用

### ② “フェイク”の時代だからこそ 顔の見える信頼のジャーナリズム



フェイクニュース、フィルターバブル等の課題に  
世界の報道機関等と連携して対応

- ・取材過程の見える報道の展開
- ・他の報道機関とも連携

### ③ 民主主義の一翼を担い 平和で持続可能な世界の構築に貢献



情報空間の健全性を確保し、持続可能な社会を目指す

- ・世界の“今”を正しく理解するための情報の多様性
- ・「安全保障」「SDGs」「脱炭素」など世界的課題の解決

### ④ 世界で輝く 良質な教育・幼児子どもコンテンツ



子どもから大人まで世代に合わせた学びに役立つ  
教育コンテンツを開発

- ・Eテレの今日的役割を明確化
- ・新キャラクターを開発しグローバル展開への挑戦

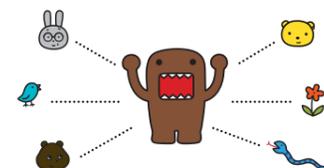
### ⑤ 未来を見つめ 人生を豊かにする 教養・エンターテインメント



放送100年を迎えたメディアとして  
アーカイブスも活用して“人間の未来”を後押し

- ・大型教養ドキュメンタリーの展開
- ・大河ドラマ「べらぼう」を軸に、日本文化を強く発信
- ・NHKが保有する映像資産を最大限活用

### ⑥ 幅広いジャンルと地域情報で 多様性・多元性の実現



これぞNHKという人気定時番組の開発

- ・ユニバーサルサービスの強化
- ・全国ネットワークを生かした効率的で質の高いコンテンツ

# 地域からグローバルまで ～民主主義の健全な発展に貢献～

地域

- 厳しい財政状況のなかでも、価値の源泉である、取材・制作の基盤的資源へ投資
- 災害対応、地域取材を基軸に、一律化することなく、それぞれの地域に合った形態でサービスを展開していく

(参考) 経年実施の「地域指標調査」から各地の地域問題に対する意識は、ここ数年で「風水害」「安全保障」「教育」などが相対的に上昇

→NHKの地域サービスへの期待は、災害対応と地域取材が核



国際

## 国際発信(フロー)

- 戦略的に強化してきたニュース・情報発信を、今日的な問題・関心のもと、再強化
  - 視聴環境の変化に合わせ、デジタルもフル活用
- 分断、民主主義の危機が進むなか、国際発信を再強化し「日本の視座」を発信

## 国際展開(ストック)

- 各国で浸透するOTT\*ほか、コンテンツの流通革命に合わせ、戦略的に制作・展開の可能性を探る →結果、副次収入増等にも貢献
  - 米国ハリウッド等との本格協業による社会派ドラマ
  - 黎明期の名作も含めた“NHKアニメ”の多面展開等
- 世界各国で多様な消費をされるコンテンツ市場で、「日本の視座」を発信

\*インターネットを通じて提供されるコンテンツ配信サービス

# 情報空間全体の多元性確保への貢献

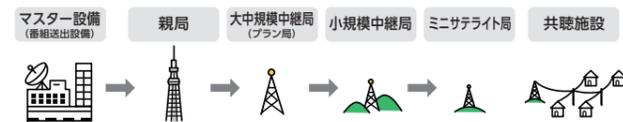
## 基幹となる二元体制維持

(予算規模:600億円\*)～将来の受信料負担の軽減に貢献～

## ネットワーク効率化に向けた取り組み

(共同利用型モデルの導入、持続可能な代替手段の検討等)

- 経済合理性を大前提に、民放と協調して積極的に対応していく



\*NHK経営計画(2021-2023年度)※2023年1月修正において、当中期経営計画期間に支出するものとして算定し、経営委員会が議決したものの

## メディア産業全体のために

(予算規模:100億円\*)～地域を含むメディア産業全体の多元性確保に貢献～

## 情報空間の健全性確保への貢献

(外部連携による取り組み)

- オリジネーター・プロファイル技術研究組合への参加
- Trusted News Initiativeへの参加 等

## 外部との協調・連携

- “共存共栄”のための外部制作比率の確保(衛星)
- 取引について、より透明化し、公正性の確保を推進(人権とビジネスの観点も含めて)
- 業界全体の底上げの取り組み 等

# 事業構造改革と新規領域創造を同時に進める経営改革

## 事業支出改革

- コンテンツの総量削減、設備投資の大幅削減等により、収支改善(△1,000億円削減の実現)
- コンテンツDXの推進、クラウド時代のワークフロー見直し等で実現
- メディアの整理・削減(衛星1波・音声1波を削減)



## 受信料収入

- 公平負担の徹底を図るため、視聴者との接点(デジタル・書面・対面・外部団体等)を開発・拡大し、契約申し出・支払いの利便性やNHKへの理解を高める、時代に即した「新たな営業アプローチ」を推進

→支払率は現在の水準を維持する

## 副次収入等、受信料外収入の拡大検討

- コンテンツの流通革命に合わせ戦略的に制作・展開 →海外展開等の効果としての副次収入増を図る
- 関連団体からの受取配当金増加

## 収支計画(事業収支)

(2027年度で収支均衡)

区分 (億円)	2024年度		2025年度		2026年度	
		増減		増減		増減
事業収入	6,021	△418	5,934	△87	5,945	11
うち受信料	5,810	△429	5,730	△80	5,655	△75
事業支出	6,591	△128	6,334	△257	6,195	△139
事業収支差金	△570	△290	△400	170	△250	150
還元原資による補填	570	-	400	-	250	-

● インフレ下であっても、「NHK経営計画(2021-2023年度)※2023年1月修正」の“約束”を果たし、収支均衡・値下げした料額を堅持

# 「信頼」がすべての源 視聴者・国民から「信頼」されるNHKの組織運営へ

## 「信頼」をつくり出す現場マネジメント ～現場力の強化～

## 経営マネジメント ～説明可能・アカウンタブルな経営の徹底～

- 経営の意思決定プロセスの明確化、透明性向上
- 内部統制強化の一環として、すべての稟議書の査閲など監査委員会の機能充実を図る
- 協会・関連団体の運営、業務、財産に関する重要な内容に対し、とくに「ガバナンス」の観点から、経営委員会が、執行部と審議・検討する定期的な会議体を設置
- 経営委員会がより幅広く意見を集め、多元性の確保など、ガバナンスに生かす取り組みを強化

※本計画は公表日現在(2024年1月)の放送法に基づいたものです。放送法等関係法令が改正された場合には必要に応じて見直します。  
※収支、支払率等は公表日現在(2024年1月)での想定であり、経済状況の変化などによって見通しが変動する可能性があります。

## 放送法第71条の2第2項第1号・第3号に規定された事項について

本計画における、放送法第71条の2第2項第1号および第3号に規定された記載事項は、以下のとおりである。

### 第1号 中期経営計画の期間

2024年度から2026年度まで(2024年4月1日から2027年3月31日)の3か年とする。

### 第3号 協会が行う業務の種類及び内容

- (1) 国内放送として、テレビジョン放送(総合テレビジョン、教育テレビジョン、NHK BS、NHK BS プレミアム4K、BS8K)、中波放送(第1放送、第2放送)、超短波放送(FM放送)を実施する。
- (2) 国際放送として、邦人向け、外国人向けテレビジョン放送、ラジオ放送を実施する。
- (3) インターネット活用業務として、総務大臣の認可を受けた実施基準に基づき、放送番組、理解増進情報を提供する。
- (4) 調査研究として、放送番組及び放送技術の両分野にわたって調査研究活動を行う。
- (5) 上記のほか、放送法第20条第2項(上記(3)を除く)及び第3項の業務を実施する。

## 編成のポイント

NHK経営計画(2024-2026年度)の1年目、2024年度には、受信料値下げの通年化による事業支出の削減が始まります。これまでとは異なる経営環境のもとで、いかにして視聴者のみなさまの関心に応え、NHKならではのコンテンツで放送・サービスの質を向上させていくのか。この課題に全力で取り組みます。

そのためには、NHKが実現すべき公共的な価値とは何かを突き詰めて、放送・サービスの選択と集中を進め、経営資源を最適に配分していく必要があります。

命と暮らしを守る災害・減災報道。信頼のジャーナリズムの構築。民主主義の一翼として平和で持続可能な世界の構築への貢献。時代に即した教育コンテンツの充実。未来を見つめる教養・エンターテインメントコンテンツの開発。幅広いジャンルでの多様性の確保。これら6つにしばって重点事項を掲げました。

これにより、情報空間が放送以外に広がるデジタル時代に情報の真実性・信頼性を確保するため、社会の基本情報の提供や民主主義の基盤となる多様な価値観への相互理解の促進といった、公共メディアの役割を果たします。

また、「放送ガイドライン」で定めた基本的な姿勢を再確認し、放送倫理や人権の尊重、コンプライアンス意識の徹底を図ります。

2025年3月は、放送が始まってから100年の節目です。これから先の100年も、「NHKは必要、あってよかった」と視聴者のみなさまに思っただけのよう、公共的な価値を創造し、健全な民主主義の発達に貢献します。

### 2024年度6つの重点事項

1. 放送とデジタルが連携して 災害・減災報道を進化
2. 拡大する情報空間で 信頼のジャーナリズムを構築
3. 民主主義の一翼を担い 平和で持続可能な世界の構築に貢献
4. 社会の変化に応じて 学びのコンテンツを深化
5. 放送100年 未来を見つめ人生を豊かにするコンテンツを開発
6. 幅広いジャンルで 多様性を確保

## 信頼できる情報発信で暮らしの安全・安心を支える 社会的な課題解決に取り組み、公共的価値を高める



### 顔が見えて信頼できるニュース・解説番組を強化

緊迫化する世界情勢や円安・物価高など、暮らしの安全・安心が揺らぐ時代。だからこそ、顔が見えて安心できる情報をより詳しく多角的に提供します。「国際報道2024」と「キャッチ!世界のトップニュース」は放送時間を拡大。「みみより!くらし解説」は「みみより!解説」と改題して正午のニュースの直後に放送します。



【午後LIVE ニュースーン】



【新プロジェクトX〜挑戦者たち〜】

### 平日の日中は生放送番組をお届け

平日の午後1~2時台は地域ならではのニュースをきめ細かく全国発信する「列島ニュース」を放送。午後3~5時台には全国各地からの中継を交え、ニュースや生活情報を伝える「午後LIVE ニュースーン」がスタートします。放送とデジタルを連携させたさまざまな手法で、全国ネットワークを生かして日本の「いま」をビビッドに発信。生放送でお届けすることにより、柔軟に緊急報道に対応するとともに、災害や事故・事件等のニュースを迅速に伝えます。

### 知恵と勇気を届ける教養番組

土曜の午後7~8時台。18年ぶりに「新プロジェクトX〜挑戦者たち〜」が復活します。バブル崩壊以降のいわゆる「失われた時代」にも、無名の日本人たちによる挑戦と快挙のドラマがありました。平成・令和に光る名もなき人々の物語から、今を生き抜くための知恵と勇気を届けます。



【あしたが変わるトリセツショー】

### アーカイブス番組を活用し、多彩なジャンルの映像資産を還元

2001年に放送し好評だった連続テレビ小説「ちゅらさん」を平日の午後0時台に放送。金曜の午後10~11時台にはアーカイブス活用番組「時をかけるテレビ〜今こそみたい!この1本〜」がスタート。今見ても色あせない多彩なアーカイブス番組を、放送当時の背景や制作の舞台裏とともに伝え、資料映像に新たな価値を吹き込みます。



【ドキュメント72時間】

### 個性的で多彩な番組ラインナップ

月~水曜の午後11時台は、個性的でとがった演出の番組を放送。Eテレで好評の「ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪」と子どもからシニアまで楽しめる「ワルイコあつまれ」。近現代のビルのスゴみを味わい尽くす「すこぶるアがるビル」、一流の武術家やアスリートたちが熱いトークと秘伝の技を披露する「明鏡止水 武の五輪」など多彩な番組が並びます。



【所さん!事件ですよ】

### ユニバーサル・サービス放送時間(週あたりの時間)

字幕放送	解説放送	手話放送
146時間14分	26時間08分	0時間30分

# 子どもから大人までの学びを支援 誰もが楽しめるユニバーサル放送・サービスを充実



## 世代や生活スタイルにあわせて番組を放送

### 【家族で楽しめるゾーン】

平日午後7時台は家族で楽しみながら学びも得られる番組が充実！月曜はお金を切り口に偉人の半生をたどる「偉人の年収 How much?」、火曜は育児がより楽しくなる新感覚子育てバラエティー「ハロー！ちびっこモンスター」、水曜は世間から忌み嫌われるヴィラン(悪役)を違った視点で見直す「ヴィランの言い分」を放送します。

### 【週末の若年層向けゾーン】

土曜の午後8～9時台は若年層向けの番組。土曜午後8時台は、10代が熱中する沼の世界を案内する「沼にハマってきいてみた」を放送。午後9時台は、10代の漠然とした不安や悩み、好奇心に答える一冊を、ブックディレクターの幅允孝さんが紹介する「理想的本箱 君だけのブックガイド」がスタートするほか、大学の入試問題をクイズ形式で楽しく紹介する「ニュー試」を放送します。

### 【大人のライフ教養ゾーン】

平日午後9～10時台、土曜午後10時台は曜日ごとに幅広い世代の知的好奇心に応える番組がさらに充実。多彩でEテレらしい学びの機会を提供します。3か月で憧れの教養やスキルをマスターする新シリーズの第1弾「3か月でマスターする世界史」がスタートするなど、午後9時台に本格的な教養講座番組を放送。さらに人気番組の「ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪」「クラシックTV」をラインナップ！「趣味どきっ！」などレギュラー放送している趣味番組は放送時間を拡充・強化します。

## 平日の幼児・子ども番組を拡大、強化

平日午後5時台は、幼稚園児や帰宅した小学校の児童に向けた番組ゾーン。データ放送などを活用してリアルに参加できる「天才てれびくん」「ビットワールド」の放送時間を拡充・強化します。

## 放送100年に向け、良質なアーカイブス番組を活用

火曜・土曜午後10時台に、これまでNHKが蓄積してきた良質で貴重なアーカイブスを、リマスター技術で高精細化した「おとなのEテレタイムマシン」がスタート。教養・音楽・美術などEテレらしい番組を掘り起こし、えりすぐりの映像資産を視聴者に還元します。

### ユニバーサル・サービス放送時間(週あたりの時間)

字幕放送	解説放送	手話放送
118時間18分	27時間34分	4時間55分



「ヴィランの言い分」



「3か月でマスターする世界史」



「おとなのEテレタイムマシン」



「天才てれびくん」

# エンターテインメント、スポーツ、国際情報を網羅 テーマパーク的チャンネル



## 週末は幅広い視聴者が満足する番組を提供

土曜夜間は、これまでもBSプレミアムで好評いただいた人気の自然・紀行・歴史・エンターテインメントなど、見応えある特集番組を多彩にラインナップ。BSの大きな魅力のひとつ「MLB」中継はもちろん、固定ファンの多い「Jリーグ」中継や「ワースポ×MLB」を放送し、これまでに以上に幅広い視聴者の興味関心や期待に応えます。

## 平日夜間は人気番組とプロ野球を放送！ バラエティー豊かなラインナップを実現

平日の夕方から夜間にかけては、歴史を大きく変えた英雄たちの決断に迫る「英雄たちの選択」など、BSプレミアムで人気の番組を引き続き放送し、毎日違った楽しさや感動に出会えるチャンネルに進化します。水～金曜の夜間帯では、「プロ野球」を中心に視聴者の関心の高いスポーツ中継をお届けするほか、時機に応じたさまざまな特集番組も随時放送。視聴者に新たな驚きや発見を提供します。

## 世界の「いま」に深く迫る番組で、 国際情報の発信を強化

緊迫する世界情勢の中、刻々と変化する世界や人々の動きについて、正確かつ迅速に伝えるニュースや、国内外のドキュメンタリーなどで多角的に伝えていきます。「国際報道2024」を拡充するほか、「NHKワールド JAPAN」で放送した番組を日本語化して伝える「国際放送セレクション」を火曜・水曜深夜に放送。平日夜間の国際情報を強化します。

## 日曜夜は“サッカーゾーン”！ 伝説の試合がよみがえる、アーカイブス番組を新設

サッカーFIFAワールドカップの歴史を彩る伝説の試合の数々を、リマスターにより高画質化し、ノーカット・フルマッチでお届けする「FIFAワールドカップ～伝説の試合ノーカット～」がスタート。これまでもBS1で放送してきた「Jリーグタイム」と合わせ、BSの日曜夜は“サッカーゾーン”として、関心が高い視聴者の期待に応えるとともに、新たな魅力を発信します。

### ユニバーサル・サービス放送時間(週あたりの時間)

字幕放送	解説放送
71時間48分	10時間45分

## ドラマも引き続きBSで

長年、BSプレミアムで行ってきた“朝ドラ”と“大河ドラマ”の衛星波先行放送は、視聴者の視聴習慣を大切に、放送時間を変えることなく継続。また、「BS時代劇」「プレミアムドラマ」「海外ドラマ」といったBSプレミアムで放送してきたその他のドラマラインナップも、引き続きBSでお楽しみいただけます。



「FIFAワールドカップ～伝説の試合ノーカット～」



「ワースポ×MLB」



「国際報道2024」



「にっぽん縦断 こころ旅」

# 臨場感あふれる映像文化の殿堂として 見ごたえのある多彩なコンテンツをラインナップ

NHK  
BSP4K

## 個性的な主力番組を編成し、 BSP4Kのさらなる定着を

月～木曜の午後7～8時台は「体感!グレートネイチャー」「ワイルドライフ」をはじめ、曜日ごとに自然、紀行、歴史などのテーマを意識した、臨場感を味わえるスペシャル番組を放送します。これまで視聴者からの支持が高かった定時番組をさらに充実させ、4Kならではの高精細な映像の魅力を訴求します。また、2K連動定時番組は原則“4K先行放送”とし、視聴者にとって特別感のある編成を目指します。

## 平日夜間帯は超高精細映像で 多彩な番組をゆったりと楽しむゾーンに

火曜午後9時台は「ダークサイドミステリー」、木曜午後9時台は「六角精児の呑み鉄本線・日本旅」や「中井精也の絶景!てつたび」など、視聴者に人気の高い日本全国を旅する鉄道関連番組をセクションで放送します。4Kの超高精細映像でドラマをお楽しみいただくなど、大人がゆったりとくつろぎながら楽しめる時間帯としてさらに強化します。

### ユニバーサル・サービス放送時間(週あたりの時間)

字幕放送	解説放送
117時間17分	19時間20分

## 4Kリマスター技術でよみがえる 名作・大型特集番組を週末に編成

日曜午前11時台には、大河ドラマ史上最高の平均視聴率39.7%を記録した「独眼竜政宗」アンコール放送をお届けするなど、名作ドラマやアーカイブス番組といった貴重な映像資産を、4Kリマスター技術で鮮やかによみがえらせます。土曜夜間には、視聴者の関心が特に高い大型特集番組・海外中継番組など、4Kならではのスケールを最大限に発揮した満足感の高い番組を取りそろえます。



「体感!グレートネイチャー」



「ワイルドライフ」

# 世界最先端の映像メディアチャンネル 最高水準の映像記録を提供し社会に貢献する

NHK  
BS8K

## 8Kらしい圧倒的インパクトのある番組を 土曜・日曜に集中編成

息をのむような映像体験をお楽しみいただく自然番組や美術番組、誰もが見たくなる超一流のコンサートや舞台を観客席で体験しているかのようなエンターテインメント番組をラインナップ。8Kの臨場感を最大限に生かしたコンテンツを土曜・日曜午後に放送します。

## 将来世代まで残る世界水準のコンテンツを追求

日本各地の貴重な文化財や優れた芸術、伝統文化・芸能、美しい自然など、映像資産として未来に残したいテーマを8Kの超高精細画質で記録し、地域の魅力を豊かな映像表現で発信します。あわせて、各地域の放送局での受信公開などに8Kを活用し、NHKならではの映像体験を提供します。

### ユニバーサル・サービス放送時間(週あたりの時間)

字幕放送	解説放送
49時間54分	4時間31分

## 8Kの魅力を凝縮したテーマ別編成を継続

世界に誇る8Kの美しい映像と臨場感あふれる番組を、紀行、自然、芸術、エンターテインメント、ドキュメンタリーなどのテーマ別に定時的に編成し、よりわかりやすく視聴者に届けます。



「謎解き! ヒミツの至宝さん」

# 安全・安心を担う音声基幹波 さまざまな世代に支持されるチャンネルに

NHK  
R1

## リスナーや地域とつながり、寄り添う番組をラインナップ

2025年に迎える“ラジオ放送開始100年”に向けて、日本各地の午後の空気を生放送で発信する新設番組「まんまる」など、ラジオ本来の魅力である「つながる力」を感じるとともに、リスナーに役立つ情報をお伝えする番組を放送します。



「又吉・児玉・向井のあとは寝るだけの時間」



「まんまる」

# いつでもどこでも学べる生涯学習波として 多様な知的欲求に利用しやすい形で応える

NHK  
R2

## あらゆる世代の学びを支援

新設番組「NHK高校講座 英語コミュニケーションⅢ」「NHK高校講座 古典探究」「NHK高校講座 論理国語」をはじめとした、さまざまな言語の講座番組や教育番組・教養番組を編成し、学習機会を提供します。



「アナウンサー百年百話」



「ラジオ英会話」

# リスナーの興味・関心に深く応える専門的な番組を提供し 緊急時にはラジオ第1放送と連携する機動的な編成

NHK  
FM

## 音楽の新たな魅力を体感する番組を新設

「クラシックの庭」「江崎文武のBorderless Music Dig!」など、さまざまなジャンルの音楽について、深い知識を得るとともに新しい発見があるような番組を新設します。また、音声波の再編を検討する一環として、語学番組「ニュースで学ぶ『現代英語』」「まいにちハングル講座」「まいにち中国語」なども編成します。



「クラシックの庭」



「江崎文武のBorderless Music Dig!」



## デジタル時代の楽しいコンテンツ・便利なサービス

### 2024年度インターネット活用業務の基本方針

NHKのインターネット活用業務は放送法にのっとり、その種類や内容を「NHKインターネット活用業務実施基準」に定め、各年度の実施計画に基づき実施しています。

2024年度実施計画の基本方針では、インターネット活用業務は放送の補完として、「情報空間の参照点」を提供

する役割を果たしていくために、実施基準を順守し放送法の趣旨に沿って実施すること、受信料を財源とする業務については効率的・効果的に実施し、経理の透明性を確保すること、放送法上の努力義務である地方向け放送番組の提供や他の放送事業者との連携・協調等について積極的に実施することなどを掲げています。

### NHKプラス（地上テレビ常時同時配信・見逃し番組配信）

「NHKプラス」は、総合テレビとEテレの番組をインターネットで視聴できるサービスで、2020年4月1日に本格的に放送同時配信・見逃し番組配信を開始しました。インターネットで提供するために必要な権利などを確保できた番組を配信しています。総合テレビの同時配信は24時間提供し、Eテレは、深夜早朝の放送休止時間帯を除き、19時間程度、同時配信を行っています。

2021年3月から、地方向け放送番組の見逃し番組配信が始まりました。午後6時台のニュース番組については、2023年6月から全国の48番組すべてを配信しています。

また、視聴できる機器について、スマートフォン、タブレット、パソコンに加え、インターネットに接続された一部のテレビなどにに向けたアプリによる見逃し番組配信も2022年から行っています。

2024年3月からは、BS放送の魅力体験をいただくために、おすすめ番組の配信も開始しました（対応するテレビでは4K解像度でもお楽しみいただけます）。

放送と通信の融合が進む中で、インターネットも活用して、公共性の高い情報やコンテンツを届けていくことは、NHKが「公共メディア」として、「情報空間の参照点」を提供する役割を果たしていくうえで重要な課題だと認識しており、「NHKプラス」は、その取り組みのひとつだと考えています。



※画像はイメージです NHKプラスアプリ

### NHKオンライン

NHKの「顔」として1995年に開設された「NHKオンライン」は、ニュース・気象情報をはじめ、番組表や各番組のサイト、イベント案内、受信契約の受け付け、経営情報、問い合わせ窓口、読み上げソフト用サイトなどから構成されています。2022年4月にはトップページのリニューアルを行いました。



NHKオンライン・トップ画面

### NHK for School・NHKラーニング

「NHK for School」は学校だけではなく家庭学習でも役立てられるコンテンツを提供することで、時間と場所にとらわれず、子どもたちの学びの機会の確保を目指します。また2022年4月からは、教育番組にとどまらず、NHKが放送しているさまざまなドキュメンタリーや教養番組などの中から、「まなびのエッセンス」を抽出したショート動画を切り出し、「NHKラーニング」として提供しています。



NHK for School・トップ画面

### インターネットラジオ

NHKネットラジオ「らじる★らじる」は、マンションなどの建物の中や、山間部や外国電波の混信などによってラジオ放送が聞こえにくい状況を改善するため、2011年9月から始まりました。

現在、札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・松山・福岡エリアの「ラジオ第1」と「FM」、全国エリアの「ラジオ第2」をインターネットを通して、全国どこでもお楽しみいただけます。また、放送後も聴くことができる「聴き逃しサービス」や、活字でも楽しめる「読むらじる。」を一部の番組について提供しています。そのほか民放のインターネットラジオ「radiko」でも、らじる★らじると同様に「ラジオ第1」と東京エリアの「FM」を全国でお聴きいただけます。

ラジオを再び多くの方々の生活の一部にさせていただくため、NHKラジオはサービスをさらに充実させていきます。



NHKネットラジオ「らじる★らじる」PC版

NHKネットラジオ「らじる★らじる」アプリ

### 4K・8Kデータサービス/データ放送

総合テレビとEテレ、BSでは、「dボタン」を押すと、いつでもニュースや気象、番組情報、スポーツ、経済情報などを見ることができる「データ放送」を実施しています。総合テレビのデータ放送は、「ニュース」や「防災・生活情報」などで、地域ごとのニーズにきめ細かく応えるサービスとなっています。

さらに、テレビをインターネットに接続すると見ることができる「データオンライン」では、「5kmメッシュ天気予報」や気象レーダーの拡大画面など、より詳細な情報をお伝えしています。

地震や津波が起きた際には、警報・注意報などの情報を速やかに伝えるとともに、避難所や交通、ライフラインなどの情報を継続的に提供しています。

2018年12月1日に開始された4K・8K衛星放送でも「データサービス」として、放送予定（テキスト情報）、字幕、広報動画を提供しています。

2019年からは、データ放送でのサービスと同様に4K・8Kの「NHK紅白歌合戦」で視聴者投票を実施、また2023年7月から4Kの「鉄オタ選手権」でクイズに答えられるなど、放送番組と連動する連動データサービスを実施しています。



BSP4K・データサービス画面

### NHKオンデマンド

NHKがこれまでに放送した番組を有料でネット配信する会員制サービスです。放送後の見逃し視聴（2週間）から過去作品のアーカイブまで、12,000本以上の幅広い番組をご覧いただけます。配信中のすべての番組を視聴できる「まるごと見放題パック」（月額990円税込み）と、番組単品での購入利用（110円～330円税込み）があります。NHKオンデマンドはPC、スマホ、タブレットなどで利用できます。また、テレビ画面での視聴も可能です。テレビ向けアプリはAndroid TV OS搭載のスマートTV、またはChromecastを使用します。携帯プラットフォームを経由する形でも可能です。



NHKオンデマンド・トップ画面

※受信料と会計を分離して運営される有料サービスです。

# いざという時に命と暮らしを守る報道

## 設備や体制の強化 ヘリコプター・ロボットカメラ

NHKは、どんな災害の時にもみなさまの生命・財産を守る放送を続けるために設備や体制を強化する取り組みを進めています。被災地の状況をいち早く伝えるのに力を発揮するのが、ヘリコプターやロボットカメラの映像です。東日本大震災では、大津波の状況を刻々と生中継で伝えました。NHKは、ヘリコプター15機の体制で全国をカバーし、ロボットカメラを900か所以上で運用しています。



ロボットカメラで撮影した津波 災害報道で力を発揮するヘリコプター

## バックアップ機能の強化 大阪放送局

首都直下地震などで東京の放送センターから放送やデジタルの情報発信ができなくなった場合を想定したバックアップ機能の強化も進めています。こうした場合、東京の代わりを大阪放送局が担い、放送などを継続します。被災地である首都圏からは、大阪放送局から出すニュースなどに参加する形で情報発信できるよう、体制の整備や訓練に取り組んでいます。

南海トラフ巨大地震や千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震にも備え、被害が想定される地域を中心に取材や放送、デジタル発信に関わる設備の強化や、体制の整備を進めています。

## 「自分のこと」と受け止めてもらう強い調子の呼びかけ

災害が起きた時に多くの人の命を救えるように、伝え方の改善にも取り組んでいます。大津波警報や津波警報が出た場合には、すぐ避難してもらるように、強い調子で避難を呼びかけています。能登半島地震でも「避難を呼びかける報道」を徹底しました。津波警報などを伝える画面もできるだけ簡潔な表現に見直すなど、「見て、聞いて、すぐわかる」災害報道に努めています。また、2018年7月の西日本豪雨などの経験から、災害の危険性を「自分のこと」として受け止め、避難などの行動につなげてもらうために、災害切迫時には地域放送局からローカル放送を積極的に行う「ローカルファースト」の方針を打ち出しました。できるだけ詳しい地名や避難場所を伝え、災害の最新状況を記者や気象予報士が「リアルタイム」で解説するなど、きめ細かい地域情報の発信強化を進めています。



能登半島地震の放送

## 防災関係機関や専門家との連携を強化

また、気象庁や国土交通省といった防災関係の機関や地域の防災士などの専門家との連携を強め、危険が切迫している地域の詳しい状況を伝えてもらう取り組みを始めています。



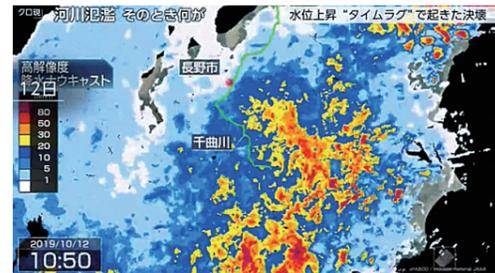
国土交通省の河川カメラ画像をNHKサイトでも表示

## 多メディアできめ細かく情報発信

さらに、テレビやラジオだけでなく、インターネットやスマートフォンのアプリ、データ放送などを多角的に使い、災害情報や避難情報、生活情報などを的確に伝えるための取り組みを進めています。特に、各地の放送局が地域のみなさまに向けて、テレビ、ラジオの特設ニュースやL字放送、データ放送、ホームページなどさまざまな手段で、身近な情報をきめ細かく発信できるよう体制を整備しています。また、手話による情報発信の強化も進めています。さらに、国内の外国人へ災害情報を伝えるため、英語表示やテレビから「NHK WORLD-JAPAN」への誘導の取り組みを進めています。



英語表示や、英語副音声「NHK WORLD-JAPAN」への誘導



災害を分析・検証する番組

# 世界のニュースを速やかに、わかりやすくお伝えします

グローバル化が進み、視聴者のみなさまの国際ニュースへの関心はますます高まっています。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、イスラエルとイスラム組織ハマスとの軍事的な衝突、アメリカのバイデン政権や次期大統領を決める選挙の動き、存在感を増す中国の動向、核・ミサイル開発を加速させる北朝鮮の状況など、世界の出来事や課題を速やかに、わかりやすくお伝えすることが、公共放送としてのNHKの重要な使命です。

NHKは海外29か所に取材拠点を置き、およそ80人の特派員がニュース・番組の対応にあたっています。海外で直接取材して現地から伝えることを大原則としています。

また、海外での大規模な災害やテロ事件などに即応するため、報道と技術の担当者による「緊急展開チーム」を編成し、いつでもどこにでも取材に出られる態勢を整えています。NHKは国際報道をさらに充実させていきます。



ロシア大統領選挙取材・モスクワ



日米韓首脳会談の取材・ホワイトハウス前



イスラエル南部での取材



中国・全人代の取材



ブルキナファソ・過激派から逃れてきた避難民の取材

- |   |   |  |
|---|---|--|
| <b>欧州</b><br>①パリ(ヨーロッパ総局)<br>②ロンドン<br>③ブリュッセル<br>④ベルリン<br>⑤モスクワ | <b>中東・アフリカ</b><br>⑥カイロ<br>⑦イスタンブール<br>⑧エルサレム<br>⑨テヘラン<br>⑩ドバイ<br>⑪ヨハネスブルク | <b>アジア・極東</b><br>⑫北京(中国総局)<br>⑬上海<br>⑭広州<br>⑮香港<br>⑯台北<br>⑰ソウル<br>⑱バンコク(アジア総局) |
| <b>オセアニア</b><br>⑳シドニー   | <b>北アメリカ</b><br>㉑ニューヨーク(アメリカ総局)<br>㉒ワシントン<br>㉓ロサンゼルス                      | <b>南アメリカ</b><br>㉔サンパウロ   |



海外総支局の体制  
NHK海外取材拠点  
29総支局  
2024年3月現在

# 日本とアジアの今を世界に伝えます



NHKの国際放送「NHKワールド JAPAN」。テレビとラジオ、インターネットで、日本やアジアの情報を全世界に発信しています。

## テレビ国際放送「NHKワールド JAPAN」

日本やアジアの情報を取り上げたニュースや多彩な番組を、1日24時間、英語で世界に向けて発信しています。衛星放送やケーブルテレビなどを通じて、約160の国と地域の約4億2,000万世帯で視聴可能です。またパソコンや、アプリ、スマートテレビなど、インターネットを通じた視聴も可能です。日本国内でも、パソコンやアプリでの視聴に加え、ケーブルテレビやIPTVで視聴できます。

### 2024年度の取り組み

- 日本の視座に立った信頼される確かな情報で世界に貢献**
- 日本の視点やアジアの立地を生かしたニュースや、専門性を生かした深い解説を強化し、世界の視聴者の理解を助ける情報を提供する
  - 国際放送のフラグシップとなるドキュメンタリー枠を新設、調査報道番組も充実させ、グローバルな課題に向き合う

### 日本の魅力や取り組みを伝えるコンテンツの充実

- 気候変動や高齢化社会などグローバルな課題について日本の先進的な取り組みを発信し、持続可能な社会の構築に寄与
- インバウンドの復活を受け、日本の地域や文化の魅力・価値を掘り下げる

### 国内放送との連携やデジタル活用により、効率的な展開を推進

- 企画段階からの一体化制作など、国内番組との連携を強化
- NHKスペシャルなどドキュメンタリー番組の英語化を拡充
- VODやSNS・外部プラットフォームなどへの展開を強化し、効果的・効率的に提供

### 訪日・在留外国人向け情報発信の充実

- 訪日・在留外国人の安全・安心を支える情報を発信
- 多様性を支え相互理解を促進するコンテンツを強化

### 2024年度の主な番組



**NHK NEWSLINE**  
(月)～(日)毎正時～(10分～18分)メインニュース番組。毎日毎正時から、最新ニュース、経済情報、気象情報などを伝えます。



**NEWSLINE ASIA 24**  
(月)～(金)後3:00～3:28 ほかアジア各地からの中継を交えながら発信する、「NHK NEWSLINE」拡大版。



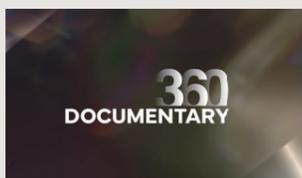
**NEWSLINE BIZ**  
(月)～(金)後5:15～5:23 ほか最新の経済ニュースをコンパクトにテンポよく、ゲスト解説なども交えながら伝えます。



**NEWSLINE IN DEPTH**  
(月)～(金)後8:27～8:40 ほか注目ニュースの深掘りから、ローカルのきらりと光る話題まで、あらゆる出来事の真相を発信。



**NEWSROOM TOKYO**  
(月)～(金)後8:00～8:27 ほか日本とアジアにスポットライトを当て、主要なニュースや最新の動きを、専門家の分析やレポートを交えて伝えます。



**Documentary 360**  
(土)(日)前9:10～10:00 ほか多様なテーマに多彩なアングルで迫る、国際放送のフラグシップとなるドキュメンタリー枠。「NHKスペシャル」「ETV特集」などの英語版や、国際放送の独自番組から厳選したラインナップで、日本ならではの視点やグローバルな課題に対する取り組みなどを、世界に向けて発信します。



**Dive in Tokyo**  
(水)前9:30～9:58 ほか海外との往来が再び活発になる中で、世界から高い関心を集める街、「TOKYO」。ナビゲーターが都内のスポットを訪ね、町並みや古地図などをヒントに歴史を掘り下げ、東京の街の知られざる魅力を発見します。



**Learn Japanese from the News**  
(月)前10:30～10:40 日本国内のニュースを基に日本語を学びます。ニュースのキーワードやその背景もわかりやすく解説し、海外の日本語学習者だけでなく、国内に暮らす外国人にも役立つ情報を発信します。



**Where We Call Home**  
(月)前9:30～9:57 ほか日本在住の外国人が、各地で新たな風を吹き込んでいます。一方、地域との摩擦や孤立に苦しむ人も少なくありません。外国人コミュニティのキーパーソンに密着、共生へのヒントを探ります。

## ラジオ国際放送「NHKワールド JAPAN」

日本のニュースや話題を17の外国語で世界に伝えています。地域の特性や受信環境に合わせて送信枠を設定し、短波、FM波、中波、衛星、インターネットと、多様な手段で情報を発信しています。

安全・安心に役立つ情報の発信強化に向け、災害や大きな事件・事故の際に最新のニュースを的確に伝えるとともに、防災・減災についての日本のノウハウなどを世界のリスナーに向けて発信します。訪日・在留外国人向けにラジオ第2放送と連携し、最新情報を届けます。

- 放送時間や周波数はこちらをご覧ください。

[www.nhk.or.jp/nhkworld/ja/information/brochure](http://www.nhk.or.jp/nhkworld/ja/information/brochure)

- 放送言語 英語 アラビア語 ベンガル語 ビルマ語 中国語 フランス語 ヒンディー語 インドネシア語 ハンガール語 ペルシャ語 ポルトガル語 ロシア語 スペイン語 スワヒリ語 タイ語 ウルドゥー語 ベトナム語



多言語情報番組「Living in Japan」のベトナム語版収録風景

## インターネットサービス [nhk.jp/world](http://nhk.jp/world)

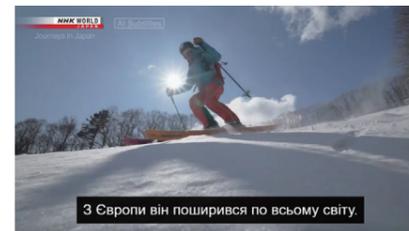
テレビやラジオのニュースや番組を、放送と同時のライブストリーミングとオンデマンド、テキストなどで配信しています。ウェブサイト、スマートフォンアプリなどを通じてご覧いただけます。放送サービスのある17言語と日本語、そしてネットのみで発信しているトルコ語、ウクライナ語、中国語(繁体字)を合わせて20言語(21種類)でサービスを提供し

ています(言語によりサービスやコンテンツは異なります)。また、フェイスブックやインスタグラム、ユーチューブなどでもニュースやショート動画、番組情報などを発信しています。フェイスブックは英語、ベンガル語、中国語(簡体字・繁体字)、ヒンディー語、インドネシア語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語、タイ語、ベトナム語でご利用いただけます。

### 自動翻訳機能による多言語字幕サービス

英語によるテレビ国際放送のライブストリーミングでは、自動翻訳機能を用いて多言語字幕を付与しています。

中国語(簡体字・繁体字)、フランス語、インドネシア語、ハンガール語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ウクライナ語、ベトナム語の中から選ぶことができます。



ウクライナ語AI字幕付き「Journeys in Japan」



ベトナム語AI字幕付き「NHK NEWSLINE」

### ■ 在外邦人向けサービス

#### 日本語テレビチャンネル「NHKワールド・プレミアム」

海外に住んでいる、あるいは、海外旅行中の日本人のために、ニュース・情報番組に加え、ドラマ、音楽番組、子ども番組、大相撲中継などのスポーツ番組など、幅広い分野の番組を、国内各波から抜粋し、1日24時間編成しています。一部のニュース・番組は海外向けにインターネットでも配信しています。

#### 日本語ラジオチャンネル「NHKワールド・ラジオ日本」

国内の主要ニュース、時事番組、スポーツ中継、音楽番組、ラジオドラマなど、ラジオ第1放送の番組を国内と同時に放送し、日本の多彩な情報を伝えます。

- 海外向け日本語サービス案内 [www.nhk.or.jp/nhkworld/ja/](http://www.nhk.or.jp/nhkworld/ja/)

## 地域に寄り添い 命と暮らしを守る情報発信

### 災害から命と暮らしを守る

全国に54ある放送局は、各地で頻発する災害から命と暮らしを守るため、防災・減災情報の発信に力を入れています。

2024年元日に発生した能登半島地震で、金沢、富山、新潟の放送局では、連日、テレビとラジオの特設ニュースを設けて、被害の状況や支援の動きを全国や県内に向けて発信しました。また、被災者に向けて、給水や入浴の支援、携帯電話の充電サービスなど、きめの細かい「ライフライン情報」をテレビ、ラジオ、インターネットで発信しました。金沢放送局では被災者の声に耳を傾け、一人ひとりの家族や故郷への思いを伝える「被災地の声」もホームページに掲載しています。

夏場の豪雨災害で、福岡放送局では降水量や河川水位など最新のデータを画面に示しながら記者が解説する「リアルタイム解説」を実施し、警戒すべき点を丁寧に伝えました。



金沢放送局「被災地の声」

### 地域の身近で役に立つ放送局を目指して

各地の放送局では局内に残る貴重なアーカイブ映像を生かした番組作りに取り組みました。旭川放送局では、昭和初期から続く商店街のにぎわいなど昔の暮らしや出来事を記録した映像の上映会を開き、その様子を「あなたの町の映像アルバム」と題して放送しました。鹿児島放送局でも膨大なアーカイブ映像から日本復帰70年を迎える奄美大島と徳之島を撮影した映像を蔵出して上映。島に住むさまざまな年齢層の人たちに思い出を語り合ってもらおうと、ふるさとの姿をたどる番組を放送しました。アーカイブ映像は各地の放送局の夕方のニュースやホームページでも紹介していて、人気のコンテンツになっています。

高知放送局では、地元出身の植物学者 牧野富太郎博士が主人公となった連続テレビ小説「らんまん」の放送にあわせて新しい発信に挑戦しました。ドラマに登場する印象的な植物や地元の郷土料理などの話題をドラマの進行にあわせて掘り下げ、テレビやホームページで発信。番組のPRにとどまらない地元の放送局だからこその展開が視聴者の大きな支持を得ました。

盛岡放送局では「いわてみんなのうた」と題して、県内33自治体のそれぞれのご当地ソングを制作、放送するプ

ロジェクトを行いました。地域の魅力を詰め込んだ歌詞をのせ、地元の幼稚園や保育園で収録した曲は、外部のイベントでも紹介されることも多く、地域で愛されています。



鹿児島放送局「わが町の映像アルバム」



盛岡放送局「いわてみんなのうた」 高知放送局 連続テレビ小説「らんまん」の放送にあわせて新しい発信に挑戦

### 地域の課題を考え 改善につなげる

地域の課題に向き合い、改善につなげる発信にも取り組みました。2022年度、岡山県は人口10万人あたりの交通事故死者数が全国最悪となりました。岡山放送局では「ゼロへのAction～なくそう交通事故死～」というキャンペーンを展開。自転車のヘルメット着用の必要性などを詳しく取材し、注意を呼びかけました。この取り組みの効果もあり、2023年度、県内の交通事故死者数は全国最悪だった前年度の3分の2に激減しました。これからも課題の改善に向け取り組んでいきます。



岡山放送局「ゼロへのAction～なくそう交通事故死～」

### 地域の情報 全国で視聴可能に

NHKプラスで見られる「ご当地ニュース」がさらに増えました。5月以降、新たに九州・沖縄、中国、四国、東海・北陸、東北、北海道の午後6時台のニュースの配信を始め、全国すべての午後6時台ニュース、計48番組が全国でも視聴可能になりました。

全国の地域放送局は、これからも地域のみならずと向き合い、より身近で役に立つ放送局を目指します。

## 世界の仲間とともに

### 国際共同制作

国や文化によって異なる番組の制作手法を融合させ、国際色豊かな番組を制作していくうえで有効な手段として、NHKは国際共同制作を積極的に行っています。1980年代より海外の放送局や制作会社などと継続的に国際共同制作を行っており、過去約45年でおおよそ1,300タイトルの番組を制作してきました。2023年度に放送した国際共同制作番組は34タイトル、74本でした。

### 番組の購入、提供と番組提供協力

映画やドラマ、ドキュメンタリー、エンターテインメント、クラシック、アニメなど多岐にわたるコンテンツを外国から購入し、放送しています。

一方、ドキュメンタリーやドラマなどさまざまな番組をNHKエンタープライズ(NEP)などを通じて海外に提供しています。

2023年度は、世界の15の国と地域の放送機関などに、2,289本の番組を提供しました。ドラマでは、連続テレビ小説「らんまん」や大河ドラマ「光る君へ」、漫画原作の「正直不動産」シリーズなどを海外に向けて提供しました。ドキュメンタリーは、NHKスペシャル「恐竜超世界2」「超進化論」など高精細のCGで最新の科学の世界をわかりやすく伝える番組が高い評価を得ました。「CYCLE AROUND JAPAN」「ワイルドライフ」などはアジアを中心に引き続き人気があります。また相互理解の促進やODA対象国の文化・教育の発展を目的に、NHK財団が窓口となって、発展途上国などの放送機関に番組を提供しています。2023年度は、国際交流基金を通してアジアの1か国に40本、外務省の一般文化無償資金協力によりアフリカの1か国に120本、合計で2か国に160本のNHK番組を提供しました。

### 国際協力・研修生の受け入れ

NHKは、49の国と地域の68の放送機関と協力協定・協力覚書・ニュース素材交換覚書を取り交わしています(2024年3月末現在)。

また、各国の研修生受け入れも行っています。2023年度の海外研修生の受け入れは、5か国から6人。これまでに147の国と地域から3,406人を受け入れました。

### 海外の放送連合との協力 ~ABU(アジア太平洋放送連合)~

1964年にNHKなどが呼びかけて組織されたABU(アジア太平洋放送連合)は、40億人以上の人たちが暮らすアジア太平洋地域の放送の発展を目指して活動しています。ABUには、2024年3月末現在、65の国と地域の

246の放送機関などが加盟しており、NHKは中心メンバーとして、放送を通じた国際貢献を進めるために、番組や技術面での協力を行っています。ABUの活動には、NHKが提唱して始まった「ABUロボコン(ロボットコンテスト)」や参加放送局がニュース映像を交換する「アジアビジョン」、子どもドラマやドキュメンタリー番組などの共同制作や交換、そして技術の情報交換などがあります。2023年10月31日と11月1日には、ABU総会が韓国のソウルで開催され、NHKの井上樹彦副会長がABU副会長に就任しました。

また、PBI(国際公共放送会議)の中心メンバーとして会議の運営に携わるとともに、EBU(ヨーロッパ放送連合)などとも活発な交流を行っています。



2023年ABU総会

### 日本賞 教育コンテンツ国際コンクール

日本賞はNHKが主催する教育コンテンツの国際コンクールです。1965年の設立以来、メディアの力を信じ、教育の可能性を広げる優れた作品に、賞を贈り続けています。2023年度は世界55の国と地域から391の作品が集まりました。また日本賞では世界の制作者や研究者、教育に関心のあるすべての人をつなぐプラットフォームとして、受賞者によるトークセッションや上映会などのイベントを開催しています。51回目となる2024年は11月18日~21日に開催の予定です。



2023年日本賞

国内および国際コンクールにおけるNHKの受賞作品はこちらからご覧ください。  
<https://www.nhk.or.jp/info/pr/jushou/>

## メディアのミライをテクノロジーで描く

### 技術の役割

放送・サービスを豊かで一層身近なものにするため、NHKは技術の進歩を常に先導し、放送そしてメディア全体の発展を支えてきました。NHKはラジオ放送、テレビ放送を開始した後も、1989年に衛星放送、2000年にBSデジタル放送、2003年に地上デジタル放送、2018年にBS4K・8K放送を開始するなど、日本だけではなく世界における放送技術を絶えずけん引してきました。そして、2020年にはインターネットでの常時同時配信・見逃し番組配信のサービス「NHKプラス」を開始しました。

これらの成果は、技術の「研究」「実用化」「普及・成熟」を繰り返すことで発展させてきたものです。放送技術研究所に代表される「研究」では、先進的な技術を導入し、将来の放送・サービスやシステムの研究に取り組んでいます。「実用化」では、研究成果を活用した規格化・標準化を進め、メーカーとも連携しながら実用設備・機器として各現場へ導入しています。「普及・成熟」では、導入した各種設備・機器を活用して、ニュースや番組を制作するとともに、安定した放送やサービスをお届けするための取り組みを進めています。

NHKは、この「研究」「実用化」「普及・成熟」の一貫体制により、新たな放送・サービスを創造し、メディアの発展に貢献してきました。これからもIP、クラウド、AIなどの最新テクノロジーを駆使することで、従来の放送の領域を超えた新たなサービスやメディアの創造に努めていきます。

### 放送を全国にお届けするための取り組み

NHKは、テレビ、FM、ラジオによる放送サービスを全国にあまねくお届けするため、それぞれの電波の特質を利用して送信ネットワークを構築しています。地上デジタルテレビ放送は、周波数を効率的に使える方式を用いて、約2,200局の放送所で全国をカバーしています。

FM放送の電波は、テレビの電波より遠方まで届くため、約530局の放送所で全国をカバーしています。

ラジオ放送は、いつでもどこでも手軽に聞くことができ、また、地震や台風など災害時の重要な情報メディアです。ラジオ放送の電波はテレビやFM放送の電波よりさらに遠方まで届くため、約220局の放送所で全国をカバーしています。また、夜間の混信などによりラジオ放送が聞こえにくい地域には、FMの電波を利用したラジオ中継局をこれまでに全国で約60局整備し、受信の改善を図っています。

これらテレビ・FM・ラジオ放送所の放送機やアンテナなどの設備を24時間体制で監視するとともに、定期的に保守・点検を行い、放送電波の安定確保に努めています。

また、放送の良好な受信環境の維持・改善を図ることも、公共放送としての重要な責務の一つです。

視聴者のみなさまから寄せられるテレビやラジオの受信障害の相談に対して原因調査や改善のアドバイスを行

い、それらによって蓄積されたノウハウや技術情報を関連業界に提供するなど、放送の良好な受信環境を守るさまざまな活動を展開しています。



日立北テレビ放送所(茨城県) 朝日FM放送所(山形県) 萩ラジオ放送所(山口県)

### 環境経営の取り組み

NHKでは、スタジオ照明設備の消費電力の削減に積極的に取り組んでおり、従来の白熱灯に代わる照明器具として、LED照明器具の導入を進めています。LED照明器具は、従来の白熱灯に比べ消費電力をおよそ80%削減でき、また、発熱も少ないため、スタジオ内の空調消費電力も削減できます。2023年度は地域放送局2局に導入しました。今後も、LED照明器具の採用によるスタジオ照明の省エネ化を推進していきます。



地域放送局制作スタジオのLED照明器具導入

### 放送センターの建て替え

東京・渋谷の放送センターは、運用開始から半世紀が経過し、施設の老朽化、狭あい化が進んでいます。

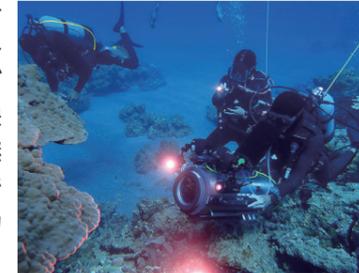
このため、東日本大震災を踏まえ、2011年6月から本格的に新放送センター建設の検討を始め、2016年8月、現在地で順次、新しい建物に建て替えていく「放送センター建替基本計画」を公表しました。新放送センターは、いかなる大規模災害時にも国民の命と暮らしを守る、公共放送の使命を着実に果たせる防災・減災報道の拠点として、また、豊かで質の高いコンテンツ制作の拠点として充実を図ります。

第1期にあたる情報棟は、2024年秋の竣工を目指しており、2026年度には新しい情報棟から本格的にサービスを展開する予定です。

一方、ドラマのスタジオなどを備える川口施設(仮称)は、2023年9月に建設工事に着手しました。

### 「NHKらしい」質の高いコンテンツ制作

NHKでは、柔軟な発想と最新技術を駆使して番組制作を行い、ドラマや音楽・エンターテインメント、ドキュメンタリー、自然科学、情報番組、スポーツ、ニュース・報道など幅広いジャンルで「NHKらしい」質の高いコンテンツを制作しています。NHKスペシャル「ディープオーシャンII 紅海 世界初! 深海の魔境に挑む」では、8Kカメラ用防水耐压ケースを開発し2021年から半年以上かけて1か月単位のロケを4回重ね、水深800mの世界で8K撮影を実現しました。「陸・海・空4K中継 絶景ぜんぶ見せます! 世界自然遺産」中継シリーズでは、日本の世界自然遺産をさまざまな場所から4K映像かつ大規模中継で、リアルタイムでの自然遺産の魅力をお届けしました。



「世界自然遺産 小笠原諸島」潜水中継の様子

技術を活用し「命と暮らしを守る」報道を深化させる取り組みも行っています。近年は記録的猛暑に見舞われることが多くなっています。これまでL字で表示していた「熱中症警戒アラート」は表示内容を手入力で行っていたうえ、視聴者からは「見づらい」との声が上がっていました。その課題を受け、気象情報やアメダスから取得した情報を自動で画面左上に簡潔に表示する改善を行いました。入力作業を自動化したことで手間や間違いを少なくし視聴者の要望にも応えることができました。

また、ユニバーサルサービスとして、音声の聞き取りが難しい聴覚障害者や高齢者向けに字幕放送を行っています。生放送の字幕では、表示が映像音声より遅れる課題がありましたが、映像音声を遅延させることで字幕表示のタイミングを合わせる「ぴったり字幕」を一部の番組で実施しより見やすい工夫を行っています。



以前のL字表示「熱中症警戒アラート」

画面左上に簡潔表示した「熱中症警戒アラート」

### 最新技術を活用したコンテンツ制作

新たなテクノロジーの活用も積極的に進め、IPやクラウド技術を活用した番組制作手法を導入しています。これまで中継先の中継車を運び行っていた制作は、IPプロダクションという手法でスタジオと中継先をIP回線でつなぎ、スタジオから中継先のカメラや音声をリモート制御することで「場所に縛られない」制作手法が可能となりました。「全日本大学野球選手権」生中継では、神宮球場で初めてIPリモートプロダクションを実施し安定したネットワーク構築とスタジオ制作環境を実現しました。

「パリユースオリンピック」では、パリ五輪を見据えてクラウド編集を行いました。従来のように現地で編集環境を整備したり現地からの素材伝送をすることなく、クラウド上で編集システムを組むことで効率的なワークフローを構築しました。高度な技術力を駆使して制作担当者の環境改善や現場設営の負担軽減につなげています。

最先端のCG・VFX技術(視覚効果)を活用した番組も数多く制作されています。NHKスペシャル「超恐竜世界2」では、恐竜同士の激しいバトルや大迫力の隕石衝突シーンなどを、最新のゲームエンジン技術を使い番組制作向けに開発したシステムを活用して、臨場感のある映像表現を実現しました。また、「クローズアップ現代」の生放送では、LEDディスプレイを用いたバーチャルプロダクション技術を活用し現地カメラマンが撮影した写真をもとに3次元CGでウクライナの街を再現するなどリアルタイムでCGを合成する手法も採用されました。

NHKでは、さまざまな最新技術を活用して、番組制作に革新をもたらす視聴者に魅力的なコンテンツを提供していきます。



LEDディスプレイを用いたスタジオ収録の様子



実際の放送映像

## 未来の新たな放送メディアを創造する研究所

### 豊かな放送文化を築くために

放送技術研究所は、日本唯一の放送技術分野を専門とする研究機関です。豊かな放送文化を築くために、放送技術分野の基礎から応用まで幅広い研究に取り組んでいます。これまで、衛星放送やハイビジョン、デジタル放送、8Kなど新しい放送メディアの創造をリードし、番組制作技術の高度化にも貢献してきました。今日も、未来を見据え、さらなるチャレンジを続けています。

### イマーシブメディア

AR・VR技術などを活用して新たな体験を提供するサービスの研究開発を進めています。あたかもその場にいるような臨場感・没入感の高い体験を可能とするコンテンツの提供を目指し、形状・質感・振動・音の特性など3次元空間の情報を余すことなく取得できるメタスタジオ基盤技術や、放送と通信の融合を深め、イマーシブコンテンツを効率よく伝送する技術の研究開発を進めています。

また、全天周映像や3次元オブジェクトを、さまざまな視聴端末にあわせて表示するための仕組みについても研究開発を進めています。



メタスタジオ基盤技術の研究

### ユニバーサルサービス

高齢者や障害のある方など、さまざまな人がそれぞれの手段で、より快適に放送を楽しむことができるように、日本語のテキストを手話に翻訳し、CGアニメーションを生成する技術や、スポーツ生中継番組でも解説音声効率よく生成する技術などの研究開発に取り組んでいます。

インターネット上の有害な偽情報・誤情報のまん延を防止するための技術的対策や、さまざまな機能を持つIoT機器を活用して、いつでも、どこでもコンテンツを享受できる仕組み、ユーザーの視聴や行動履歴などのパーソナル

データをユーザーが主体となって安全に管理、活用できる基盤技術などの研究開発も進めています。

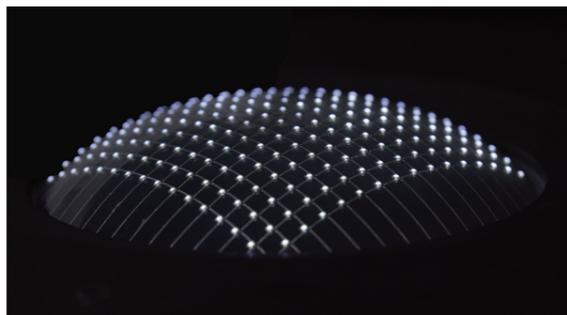


手話CG翻訳・生成技術の研究

### フロンティアサイエンス

画像解析、音声解析、言語解析などの知識を融合した、安全で使いやすい高度なAI技術や、人間科学的な研究によって、多様なメディア環境に適したコンテンツの要件や効果を明らかにする研究を進めています。

一般的なカメラでは捉えられない3次元映像を取得できるコンピューショナルフォトグラフィー、自由な形状を実現できるディフォーダブルディスプレイなどのデバイス技術の研究開発にも取り組んでいます。



ディフォーダブルディスプレイの研究

### 外部連携と社会還元

これらの研究の一部は、外部の研究機関などと連携して進めています。また、国内外の標準化活動にも積極的に取り組んでいます。研究成果は、放送だけでなく、医療、教育などさまざまな分野で活用されています。

#### NHK放送技術研究所

〒157-8510 東京都世田谷区砧1-10-11  
<https://www.nhk.or.jp/strl/>

## “公共メディア”実現の礎を築く研究所

### 放送界、社会の発展に貢献

放送文化研究所は、世界に類を見ない、放送局が運営する総合的な放送研究機関です。1946年に設立され、放送番組や世界の放送事情、放送の公共性に関する研究、視聴者のみなさまの意向を把握する世論調査など、さまざまな調査・研究を行っています。

2024年度は、「デジタル社会における“信頼”とメディアの役割」「“社会に資する”公共メディアのあり方を追求する」「放送文化の研究とコンテンツ資産を社会に還元し、豊かなメディア文化を創造する」といったテーマを軸に調査・研究を進めます。

### 調査・研究の成果を広く発表

調査・研究の成果は、「放送研究と調査」「NHK放送文化研究所年報」「NHK年鑑」などの刊行物のほか、「NHK文研フォーラム」やブログ、X(旧Twitter)等インターネットでの発信、そして放送による公開、発表など、多様な回路で公表しています。

放送の歴史に関する研究資料の体系的な収集を続けるとともに、デジタル化や目録(メタデータ)の整備を進め、順次ネットで公開していきます。



NHK文研フォーラム

### 視聴者の意向・意識を客観的に把握

放送や放送局が提供するコンテンツに対する視聴者のみなさまの意向や社会生活に関する意識を客観的・科学的に把握するため、「NHKの放送・サービスについての意向」「社会の動き」「国民生活や意識」などについてのさまざまな調査を実施し、結果を公表するとともに、番組の編成方針や諸計画の策定に役立てます。また、時代に即した新しい調査方法、分析手法などについての研究開発も行います。

### 豊かな“放送のことば”を目指して

放送のことばを、視聴者や時代のニーズに即して、よりわかりやすく、より豊かなものにするため、日本語の実態について調査・研究を進め、放送番組に役立てています。



「放送研究と調査」



「放送100年 技術の発達と放送メディア」

#### NHK放送文化研究所

〒105-6216 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕MORIタワー16F  
<https://www.nhk.or.jp/bunken/>

## 視聴者のみなさまと揺るぎない信頼関係を築くために

### NHKふれあいセンター・ハートプラザ

2023年4月から2024年3月の1年間に、NHKふれあいセンター、各放送局などにお寄せいただいたご意見やお問い合わせは、およそ309万3,000件でした。

みなさまからいただいた貴重なご意見・ご要望は、放送、技術、営業などの各部門で検討し、業務の改善に取り組んでいます。取り組みの成果は、「週刊みなさまの声」、月ごとにまとめている「月刊みなさまの声」などでお知らせしています（NHKオンラインの「みなさまの声にお応えします」をご覧ください）。

そのうち、NHKふれあいセンター（放送）では、放送や経営に関するお問い合わせやご意見・ご要望を電話やメールなどで受け付けています。1日およそ2,500件の声が寄せられ、番組内容や出演者、再放送の日時など、幅広

いお問い合わせにお答えしています。寄せられたご意見やお問い合わせの内容は、NHKの全役職員が自席のパソコンで確認でき、番組や業務の参考にしています。

また、NHKでは全国の放送局や支局の一部に「ハートプラザ」を設け、NHKに対するご意見・お問い合わせに、担当者が直接お答えしています。より透明で開かれた経営を目指して、さまざまな経営情報を公開しています。

東京・渋谷の放送センターにあるハートプラザでは、中学・高校生のみなさまを対象に、放送センターの実際のスタジオで番組リハーサルなどの見学ができる「リアルな訪問学習」を再開しました。また、コロナ禍で実施してきたオンライン形式の「バーチャル訪問学習」も引き続き行っています。



ふれあいセンター



ハートプラザ

## NHKをより深く知っていただける公開施設

### NHKプラスクロスSHIBUYA

2019年11月にオープンした東京・渋谷駅直結のビル内にある常設の広報スペースです。主にNHKに接点が少ない方々に公共放送NHKの魅力を伝え、ファンになっていただくことを目的としています。

2023年度は、連続テレビ小説や大河ドラマ、福祉や教育、スポーツ、最新の放送技術など幅広いテーマの企画展を9回開催しました。

2024年3月には、オープン以来の来場者数が90万人を超えました。今後も、NHKの番組の豊富な映像や情報などを生かした企画展を開催していきます。

※2024年9月16日をもって運営を終了します。

### NHKプラスクロスSHIBUYA

〒150-6114  
東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア14F  
<https://www.nhk.or.jp/plusx/>



「企画展 ミラクルビジョン」

### 「放送の過去・現在・未来」NHK放送博物館

日本の放送のふるさとである東京・港区愛宕山に、1956年に開設された世界最初の放送専門の博物館です。放送の歴史をたどる貴重な資料の展示や簡単なニュース体験ができるスタジオ設備、8K放送の視聴体験やイベントなどを行う空間など、楽しみながら文化や歴史を学び、NHKと放送への理解を深めていただくとともに、「番組公開ライブラリー」「図書・史料ライブラリー」などを設け、研究や調査にも活用していただいています。

開館以来、500万人を超えるみなさまにご来館いただきました。

### NHK放送博物館

〒105-0002 東京都港区愛宕2-1-1 Tel (03)5400-6900  
<https://www.nhk.or.jp/museum/>

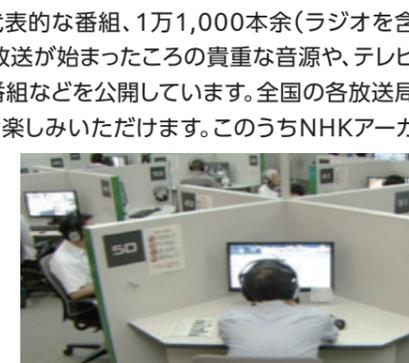


### 番組公開ライブラリー

番組公開ライブラリーは、NHKが放送した代表的な番組、1万1,000本余（ラジオを含む）を無料で視聴していただけるサービスです。放送が始まったころの貴重な音源や、テレビドラマやアニメ、紀行番組、防災・減災に役立つ番組などを公開しています。全国の各放送局など57か所のNHK施設に設けた視聴端末でお楽しみいただけます。このうちNHKアーカイブスでは、約70台の端末を備えたライブラリー施設を埼玉県と共同運営しています。

### NHKアーカイブス(川口)

〒338-0844 埼玉県川口市上青木3-12-63  
Tel (048)268-8000(公開ライブラリー直通)  
<https://www.nhk.or.jp/archives/kawaguchi/>



## 放送資産を社会へ還元

NHKアーカイブスの主たる目的は以下の3点です

1. NHKが制作・放送した番組・ニュース等のコンテンツを資産として〈保存〉
2. 放送での利用や外部への提供などコンテンツを多角的に〈活用〉
3. 保存コンテンツの視聴者への〈公開〉などにより社会還元を進める

### 全国の小・中・高・大学などの学校へDVDを貸し出し「NHKティーチャーズ・ライブラリー」

「NHKスペシャル」などの番組を授業で活用していただくため、全国の小学校・中学校・高等学校・大学などに放送番組のDVDを無償で貸し出すサービスを2009年4月から行っています。2024年度は、平和・キャリア・ともに生きる・情報と表現・防災・環境・学ぶ楽しさ、といった7つのカテゴリー、約300番組を用意しました。2023年度は全国で1,500件超の利用がありました。



### 「NHKアーカイブスの学術利用」

NHKアーカイブスの保存番組を大学等の研究者に見ていただき、学術研究に利用してもらう「学術利用トライアル」を2010年3月から試行してきました。これまで、公募による261組の研究者が参加し、136件の論文、112件の学会などでの発表という成果につなげてきました。

### 「NHK回想法ライブラリー」

懐かしい物や映像を見て思い出を語り合う回想法は、脳を活性化し、認知症の進行予防につながるといわれています。NHKは、アーカイブ映像を回想法で利用できるように2015年10月からホームページで提供、2018年度からDVDの貸し出しを開始し、全国およそ1万の高齢者施設が利用しています。2021～2022年度は全国各地の名所などを紹介するDVD第4・5巻「思い出のニッポン」①②、2023年度はその日の過去ニュースを紹介するDVD第6巻「日めくりニュース」①を追加しました。

# 人と人、人と地域社会を結ぶイベント

## 幅広い世代のみなさまと一緒に楽しむ公開番組と学びを創るイベント

各地域の自治体などからの要請に応え、放送を通じて地域の多様な文化や情報を全国に伝えるとともに、幅広い世代の視聴者のみなさまと直接触れ合う機会として、公開番組を行っています。

2024年度も「NHKのど自慢(総合テレビ)」「みんなDEどーもくん!(Eテレ)」「新・BS日本のうた(BS・BSP4K)」「真打ち競演(ラジオ第1)」などの地域のみなさまに参加していただける多彩な公開番組を全国各地で開催する予定です。

幼児を対象とした「おかあさんといっしょファミリーコンサート」「いないいないばあ!ワンワンわんだーらんど」や「おかあさんといっしょスタジオ収録」「おかあさんといっしょ宅配便『ファンターネ!小劇場』」をはじめ、全国の小学校・中学校・高等学校の児童・生徒が参加する「NHK全国学校音楽コンクール」、中学生・高校生による「NHK杯全国放送コンテスト」、高専生・大学生などを対象とした

「ロボットコンテスト」、NHK交響楽団のメンバーが学校を訪れる「NHKこども音楽クラブ」など、子どもたちの成長過程に応じたイベントを展開します。

情報を読み解き、活用する力を養ってもらうための「つながる!NHKメディア・リテラシー教室」は、全国の小学5・6年生がオンラインでつながり、進行役のNHKアナウンサーと一緒に楽しみながら学ぶ体験教室です。

さらにEテレ「沼にハマってきいてみた」の関連イベント「ヌマソニック」など次世代を担う若年層とともに創るイベントも開催します。

「NHK for School」の普及促進のため、学校の先生を対象に、入門編の「基礎セミナー」、ひととおり習熟している方向けの「活用ワークショップ」、地域のブロック大会の充実を目的とした「実践研究ワークショップ」の3種の先生向け研修会を実施します。



「NHKのど自慢」



「NHK全国学校音楽コンクール」(東京・渋谷区 NHKホール)

## スポーツの素晴らしさを伝える共催スポーツイベント

「NHK杯国際フィギュアスケート競技大会」や「天皇杯 JFA 全日本サッカー選手権大会」など多様な大型スポーツイベントを共催で実施しスポーツの素晴らしさ、感動をお伝えしていきます。

NHKは2022年度から「全日本ブレイクダンス選手権」を共催しています。今年のパリオリンピックで新競技として

採用された注目のアーバンスポーツ、ブレイクダンスが即興でかける音楽にあわせ、1対1でダンスを見せ合い勝敗を決めます。選手一人ひとりの個性を大切にするブレイクダンスの魅力、放送やイベントを通してお伝えします。全国6ブロックで行われる予選大会や「全日本ブレイクダンス選手権」では、みなさまと触れ合うイベントも開催する予定です。



「NHK杯国際フィギュアスケート競技大会」(大阪・門真市 東和薬品RACTABドーム)



「全日本ブレイクダンス選手権」(東京・渋谷区 NHKホール)

## 社会に貢献するキャンペーンイベント

NHK防災キャンペーン「命をまもる 未来へつなぐ」の下、放送・デジタル・イベントでさまざまな発信を行います。5月からの出水期には「水害から命と暮らしを守る」、冬は「大雪から命と暮らしを守る」の各キャンペーンを展開。それぞれの地域に役立つ防災減災の情報をきめ細かくお届けしていきます。災害に強い社会を目指し、避難行動要支援者の個別避難計画について話し合う「地域ミーティング」を自治体と開催するほか、地域のみなさまと連携し一人ひとりの防災力向上に取り組みます。

就活生の疑問や不安に寄り添いエールを送る「就活生応援キャンペーン」は6年目を迎え、学生リポーターが「今知りたい」ニュースや就活に役立つ情報を深掘りするサイト「就活応援ニュースゼミ」や番組、SNSを軸に、全国の就活生に確かな情報を届けていきます。また、誰もが「ありのままの自分」で生きられる社会の実現を目指す



要支援者の個別避難計画について話し合う「地域ミーティング」(山形県高島町)

「#BeyondGender ジェンダーをこえて」では、男女共同参画、LGBTQ、性教育をめぐる課題や解決の手がかりとなる番組・記事をHP「みんなでプラス ジェンダーをこえて考えよう」などで紹介し、春と秋に関連番組を集中発信する予定。子どもと大人が共に学べる性教育コンテンツの制作・配布にも取り組みます。

さらに、共生社会の実現を目指す福祉イベントとして、「NHKハート展」や「NHK障害福祉賞」「交流教室『パラリンピアンがやってきた!』」などのほか、NHK手話ニュースキャスターによる手話イベント「NHK手話ニュースキャスターがやってきた」を開催します。12月の「NHK歳末たすけあい・海外たすけあい」や国内外で発生した大規模災害時の「災害たすけあい」も、共同募金会や日本赤十字社などと連携して実施します。



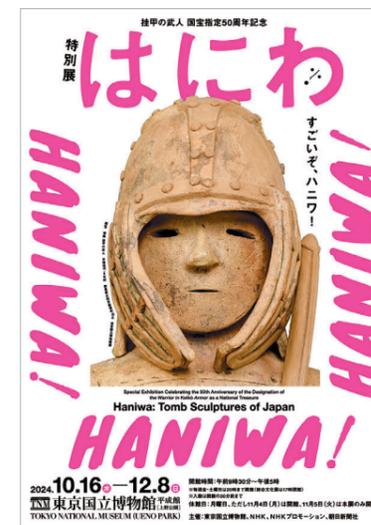
「NHK手話ニュースキャスターがやってきた」

## 質の高い芸術・文化を紹介する展覧会やステージイベント

NHKでは、放送番組と連動し、国内外の芸術・文化を紹介する展覧会を行っています。

特別展「はにわ」では、多彩な番組や同時期開催の「ハニ

ワと土偶の近代」とも連動しながら、日本全国の貴重な文化財を一堂に展示するとともに、高精細映像も活用しながら、最新の研究成果を紹介します。



特別展「はにわ」プレチラシ



「ハニワと土偶の近代」プレチラシ

特別展「法然と極楽浄土」、特別展「神護寺一空海と真言密教のはじまり」、「村上隆のものけ 京都」、「田中一村展 奄美の光魂の絵画」、「相国寺展一金閣・銀閣 鳳凰がみつめた美の歴史」などでも、さまざまな番組と連携しながら、貴重な文化財を映像とともに紹介します。

同じく音楽の舞台では、一流オーケストラが最上級のプログラムをお届けする「NHK音楽祭」のほか、多彩なクラシック音楽を幅広い世代にお楽しみいただく「NHK Classic Fes.2024」を開催します。

また、お正月恒例の「NHKニューイヤーオペラコンサート」など、国内外の優れた芸術・文化を紹介します。

この情報は2024年4月末日時点のものです。内容は変更になる場合があります。

## 公平に受信料をお支払いいただくために

### 公平なご負担を目指して

受信料は公共放送を運営するうえでほぼ唯一の財源であり、みなさまから公平にお支払いいただくため、受信料制度に対するご理解を得ながら効率的・効果的な営業活動に取り組めます。

2024年度末の受信契約件数(有料)については、契約総数4,060万件(37万件減)、衛星契約2,161万件(19万件減)を計画しています。

### 2024年度の取り組み

- 公平負担の徹底を図るため、視聴者との接点を開発・拡大し、契約申し出、支払いの利便性やNHKへの理解を高める、時代に即した「新たな営業アプローチ」を推進します。  
外部企業等との連携をさらに強化するとともに、情報の効果的な活用やデジタルを接点に視聴者との結びつきを強化することなどにより、効率的な契約・収納活動に取り組んでいきます。
- ・外部企業や業界団体等との連携をこれまで以上に強化します
- ・情報活用の高度化に取り組み、効率的・効果的な契約・収納活動を推進します
- ・コンテンツと連動した理解促進活動や、デジタル接点等を活用した届け出の促進など、さまざまなアプローチを実践します
- 受信料の公平負担を徹底するため、訪問や文書などを通じて受信料制度の意義を誠心誠意丁寧に説明し、ご契約とお支払いをお願いしていきますが、こうした努力を重ねてもなお、ご契約やお支払いいただけない場合の最後の方法として未契約訴訟や支払督促を実施します。

### 公共放送を支える受信料制度

- 公共放送NHKの活動は、その高度な自主性・自律性を財源面から保障する受信料制度によって支えられています。公平・公正で信頼できるニュース・報道番組や地域・文化に貢献する番組、障害のある方や高齢者の方に向けたサービスなど、生活に欠かせない多様で質の高い放送やサービスを提供できるのも、この制度があるからです。
- 放送法に基づいて、テレビ等の受信機をお持ちの方に受信契約を締結していただき、日本放送協会放送受信規約に基づいて受信料をお支払いいただけます。
- 受信料制度の理解促進のため、放送、ホームページ、イベントなどを活用した多面的なPRを展開します。
- 近年、放送と通信の連携の進展、視聴態様の変化、世帯数の伸びの鈍化など、NHKを取り巻くメディアや社会における環境変化が一層進むとともに、変化のスピード

も増えています。このような環境の変化を踏まえ、2017年2月より、外部有識者による「NHK受信料制度等検討委員会」を設置し、受信料制度やその運用のあり方等について検討しています。

### 放送法 (2024年4月現在)

#### 第64条第1項(受信契約及び受信料)

協会の放送を受信することのできる受信設備(次に掲げるものを除く。以下この項及び第三項第二号において「特定受信設備」という。)を設置した者は、同項の認可を受けた受信契約(協会の放送の受信についての契約をいう。以下この条及び第七十条第四項において同じ。)の条項(以下この項において「認可契約条項」という。)で定めるところにより、協会と受信契約を締結しなければならない。ただし、特定受信設備を住居(住居とみなされる場所として認可契約条項で定める場所を含む。)に設置した場合において当該住居に設置された他の特定受信設備について当該住居及び生計を共にする他の者がこの項本文の規定により受信契約を締結しているとき、その他この項本文の規定による受信契約の締結をする必要がない場合として認可契約条項で定める場合は、この限りでない。

- 一 放送の受信を目的としない受信設備
- 二 ラジオ放送(音声その他の音響を送る放送であって、テレビジョン放送及び多重放送に該当しないものをいう。第二百二十六条第一項において同じ。)又は多重放送に限り受信することのできる受信設備

### 日本放送協会放送受信規約 (2024年4月現在)

#### 第5条第1項(放送受信料支払いの義務)

放送受信契約者は、受信機の設置の月の翌月から第9条第2項の規定により解約となった月の前月まで、1の放送受信契約につき、その種別および支払区分に従い、次の表に掲げる額の放送受信料(中略)を支払わなければならない。(以下略)

### 受信料額

(料額には消費税を含みます)

種別	月額	6か月前払額	12か月前払額
地上契約	1,100円	6,309円	12,276円
衛星契約 (地上契約含む)	1,950円	11,186円	21,765円
※ 特別契約	860円	4,934円	9,599円

※自然の地形による難視聴地域または列車・船舶等の移動体で衛星放送のみ受信できる場合の契約です。

### 〔沖縄県〕

(料額には消費税を含みます)

種別	月額	6か月前払額	12か月前払額
地上契約	965円	5,539円	10,778円
衛星契約 (地上契約含む)	1,815円	10,416円	20,267円

### 受信料の支払いの特例と免除について

NHKでは、社会・経済状況の変化等に対応した、より公平で合理的な受信料体系の構築を進めています。現在、一定条件を満たしている方を対象に、次の受信料の支払いに関する特例と免除制度を設けています。

### 受信料の支払いに関する特例

#### ● 多数契約一括支払に関する特例(多数一括割引)

衛星契約または特別契約の契約件数の合計が10件以上である1の受信契約者が、口座振替もしくは継続振込またはその他の支払方法のうちNHKが指定する方法で一括して受信料をお支払いされる場合に、受信料額から1件あたり次の月額を割り引く制度です。

#### 《割引額》

衛星契約 …… 300円

特別契約 …… 90円

- ・衛星契約件数が9件または特別契約件数が9件のときは10件として計算
- ・多数一括割引と家族割引または事業所割引を併用する場合、衛星契約件数が7件、8件または9件である場合、あるいは特別契約件数が8件または9件のときは10件として計算

#### ● 団体一括支払に関する特例(団体一括割引)

ケーブルテレビなどの所定の団体の構成員で、衛星契約または特別契約を結んでいる受信契約者が15名以上まとまり、団体を通じて口座振替または継続振込により一括して受信料をお支払いされる場合に、受信料額から1件あたり月額180円を割り引く制度です。

#### ● 同一生計支払に関する特例(家族割引)

同一生計である複数の方がそれぞれの住居で受信契約を締結している場合(親元を離れて暮らす学生の方、単身赴任の方など)や同一の受信契約者が複数の住居で受信契約を締結している場合(別荘・別宅など)を対象に、適用要件を満たした場合、受信料額の半額を割り引く制度です。

#### ● 事業所契約に関する特例(事業所割引)

事業所等住居以外の場所に設置する受信機について、同一敷地内に設置した受信機すべてに必要な受信契約を締結し、一括して受信料をお支払いいただく場合、2契約目以降の契約について、継続振込等の受信料額の半額を割り引く制度です。

### 受信料の免除

「日本放送協会放送受信料免除基準」に該当する場合は、受信料の全額または半額が免除となります。

### 全額免除 (2024年4月現在)

- 公的扶助受給者
- 市町村民税非課税の障害者  
(「身体障害者手帳」「療育手帳(または判定書)」[「精神障害者保健福祉手帳」のいずれかをお持ちの方が世帯構成員で、世帯全員が市町村民税非課税の場合])
- 社会福祉施設等入所者
- 年間収入が一定額以下等の別住居の学生  
(学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校、第124条に規定する専修学校または第134条に規定する各種学校(修業年限が1年以上あるものに限る。)に在学する学生[「年間収入が一定額以下の学生」「国民年金保険料の学生納付特例対象の学生」「健康保険等の被扶養者である学生」「国民健康保険の修学特例対象の学生」「経済的理由の選考基準がある奨学金制度の奨学金受給対象の学生」「経済的理由の選考基準がある授業料免除制度の適用を受けている学生」「市町村民税非課税世帯の学生」「公的扶助受給世帯の学生」]が生計をともにする者の住居とは別の住居に受信機を設置する場合。なお、当該学生について、生計をともにする者がいない場合も含む)
- 災害被災者  
(原則、災害救助法が適用された地域において半壊、半焼、床上浸水以上の被害を受けた場合、2か月間免除)
- 社会福祉施設等  
(社会福祉法に規定する社会福祉事業を行なう施設もしくは事業所または更生保護事業法(平成7年法律第86号)に規定する更生保護事業を行なう施設もしくは事業所)
- 学校  
(学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する学校のうち、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校(前期課程に係るものに限る。)、特別支援学校および幼稚園)

### 半額免除 (2024年4月現在)

以下のいずれかにあてはまる方が、世帯主で、かつ受信契約者である場合

- 視覚・聴覚障害者(身体障害者手帳をお持ちの方)
- 重度の障害者  
(「身体障害者手帳(1・2級)」[「療育手帳(または判定書)」(最重度・重度)][「精神障害者保健福祉手帳(1級)」のいずれかをお持ちの方])
- 重度の戦傷病者

最新の情報は、本冊子の裏表紙に記載しているホームページなどでご確認ください。

# 2024年度(令和6年度) 予算と事業計画

## 一般勘定

事業収入については、受信料は、2023年10月から実施の値下げ等により、前年度に対して429億円の減収を見込みます。このほか、財務収入の増等により、事業収入全体では前年度に対して418億円の減収を見込みます。

事業支出については、将来的なコスト削減を見据えた先行投資を行う一方で、構造改革による支出見直しを行い、事業支出全体では前年度に対して128億円の減少とします。

事業収支差金の不足△570億円は、これまでの経営努力によって生み出した還元目的積立金で補てんし、視聴者のみなさまへの還元を実施します。

区分	2023年度 予算	2024年度 予算	増減額	率・%
<b>事業収入</b>	<b>6,440</b>	<b>6,021</b>	<b>△ 418</b>	<b>△ 6.5</b>
受信料	6,240	5,810	△ 429	△ 6.9
交付金収入	36	36	0.05	0.2
副次収入	69	70	0.2	0.3
財務収入	22	29	7	33.7
雑収入	30	32	2	8.2
特別収入	41	42	0.9	2.2
<b>事業支出</b>	<b>6,720</b>	<b>6,591</b>	<b>△ 128</b>	<b>△ 1.9</b>
国内放送費	3,195	3,246	51	1.6
国際放送費	204	200	△ 4	△ 2.0
国内放送番組等配信費	127	126	△ 1	△ 0.9
国際放送番組等配信費	27	26	△ 0.8	△ 3.2
契約収納費	491	429	△ 62	△ 12.7
受信対策費	7	7	△ 0.1	△ 2.4
広報費	67	69	2	3.4
調査研究費	72	67	△ 5	△ 7.5
給与	1,124	1,119	△ 5	△ 0.5
退職手当・厚生費	416	391	△ 25	△ 6.1
共通管理費	190	188	△ 2	△ 1.1
減価償却費	740	671	△ 69	△ 9.3
財務費	0.03	0.03	—	—
特別支出	22	17	△ 5	△ 24.6
予備費	30	30	—	—
<b>事業収支差金</b>	<b>△ 280</b>	<b>△ 570</b>	<b>△ 290</b>	<b>—</b>

区分	2023年度 予算	2024年度 予算	増減額
<b>資本収入</b>	<b>1,186</b>	<b>1,283</b>	<b>97</b>
前期繰越金受入れ	280	284	4
減価償却資金受入れ	740	671	△ 69
資産受入れ (固定資産の売却・売却による 簿価差額の受入れ等)	25	19	△ 5
建設積立資産戻入れ	140	308 <sup>※1</sup>	167
<b>資本支出</b>	<b>906</b>	<b>1,283</b>	<b>377</b>
建設費	906	1,272 <sup>※1</sup>	366
出資	—	11 <sup>※2</sup>	11
<b>資本収支差金</b>	<b>280</b>	<b>—<sup>※3</sup></b>	<b>△ 280</b>

※1 建設費1,272億円のうち、放送センター建替建設工事は308億円  
 ※2 共同利用型モデルの実現のための出資に備えて予算を計上  
 ※3 放送法に基づく還元目的積立金の充当対象としての資本収支差金は△11億円

**財政安定のための繰越金と還元目的積立金**  
 2023年度末における財政安定のための繰越金518億(見込み)のうち284億円を2024年度の建設費等の不足に使用します。還元目的積立金1,920億円のうち、570億円を2024年度の事業収支差金の不足の補てんに、11億円を出資に使用します。(億円)

区分	2023年度末 見込み	2024年度増減 取崩し 繰入れ	2024年度末 見込み
財政安定のための繰越金	518 <sup>※1</sup>	△284	244
還元目的積立金	1,920	△581	1,338
受信料値下げ等に充当	1,220	△570	649
視聴者の将来負担の軽減につながる先行支出等 <sup>※2</sup>	700	△11 <sup>※3</sup>	689

※1 2022年度末残高2,618億円より還元目的積立金に1,920億円を組み入れた後の698億円から、2023年度に見込まれる事業収支差金の不足180億円に補てんすることにより、518億円と見込む  
 ※2 ネットワーク効率化に向けた取り組みや、地域を含むメディア産業全体の多様性確保への貢献に係る支出に充当  
 ※3 共同利用型モデルの実現のための出資に充当

## 有料インターネット活用業務勘定

(放送法第20条第2項第2号・第3号、第73条第2項第1号)

有料インターネット活用業務勘定とは、NHKが放送した番組等をインターネットを通じて、一般の利用者に有料で配信する「NHKオンデマンド」の業務(放送法第20条第2項第2号)と、ビデオ・オン・デマンド(VOD)事業者へ番組等を有料で提供する業務(放送法第20条第2項第3号)に係る勘定です。

2024年度は、配信本数の増加や配信番組の分野拡大を通じて映像資産の還元を積極的に進めるほか、サイトの利便性を高める改修を行い利用者サービスの向上に取り組むなど、より多くの方にNHKの映像資産を活用いただけるよう努めます。

区分	2023年度 予算	2024年度 予算	増減額	率・%
<b>事業収入</b>	<b>52</b>	<b>56</b>	<b>4</b>	<b>8.7</b>
放送番組等有料配信収入	52	56	4	8.7
<b>事業支出</b>	<b>31</b>	<b>55</b>	<b>23</b>	<b>74.8</b>
放送番組等有料配信費	29	52	23	77.7
広報費	0.3	0.4	0.1	62.4
給与	0.9	0.9	0.00	0.5
退職手当・厚生費	0.3	0.3	△ 0.01	△ 5.3
共通管理費	0.4	1.0	0.5	109.3
減価償却費	0.01	0.01	—	—
<b>事業収支差金</b>	<b>20</b>	<b>0.9</b>	<b>△ 19</b>	<b>—</b>

区分	2023年度 予算	2024年度 予算	増減額
<b>資本収入</b>	<b>0.01</b>	<b>0.01</b>	<b>—</b>
減価償却資金受入れ	0.01	0.01	—
<b>資本支出</b>	<b>0.01</b>	<b>0.01</b>	<b>—</b>
建設費	0.01	0.01	—
<b>資本収支差金</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>—</b>

事業収支差金0.9億円については、一般勘定の副次収入に繰り入れます。

## 適切な資源管理とテクノロジーの力でコンテンツの“質・量”を確保

社会の基本情報の提供や民主主義の基盤となる多様な価値観への相互理解の促進といった、公共メディアの役割を果たします。公共的な価値を創造し、健全な民主主義の発達に貢献します。

### 2024年度 6つの重点事項 (国内放送番組 編集の基本計画)

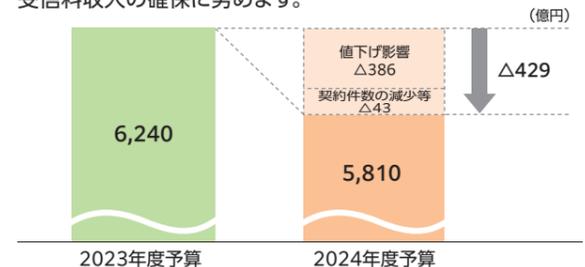
- 放送とデジタルが連携して 災害・減災報道を進化
- 拡大する情報空間で 信頼のジャーナリズムを構築
- 民主主義の一翼を担い  
平和で持続可能な世界の構築に貢献
- 社会の変化に応じて 学びのコンテンツを深化
- 放送100年  
未来を見つめ人生を豊かにするコンテンツを開発
- 幅広いジャンルで 多様性を確保

## 受信料収入・営業経費

2024年度は、受信料の値下げ(2023年10月実施)等により減収となります。

巡回型訪問営業の終了等による経費削減を図るとともに、時代に即した「新たな営業アプローチ」を推進します。

視聴者のみなさまとの接点(デジタル・書面・対面・外部団体等)を開発・拡大し、NHKへの理解や契約の届け出・受信料支払いの利便性を高め、受信料の公平負担の徹底と受信料収入の確保に努めます。

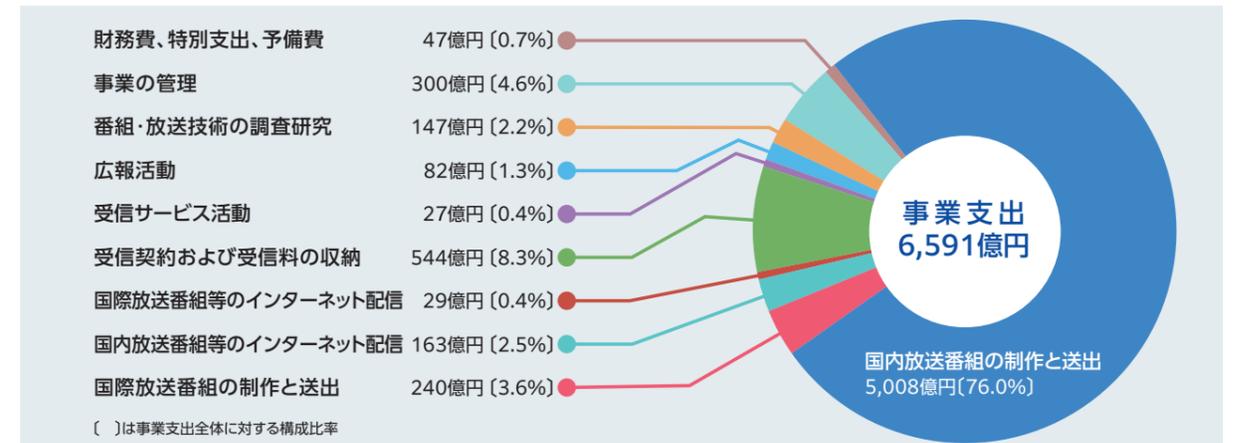


営業経費率(受信料収入に対する営業経費の割合)は9.3%となります。

区分	2023年度 予算	2024年度 予算	増減額
営業経費	607	544	△ 62
(営業経費率)	(9.7%)	(9.3%)	(△0.4pt)

## 業務別予算

業務別予算とは、業務ごとの経費(物件費)に、人件費と減価償却費を要員・施設に応じて配分したものです。



※金額については、億円未満の端数を切り捨てて表示しています。

日本の放送体制

日本の放送は、1950(昭和25)年に放送法と電波法が制定されて以来、NHKと民間放送の併存体制のもとで発展を遂げてきました。この体制のもとでは、テレビを設置した方に公平に負担していただく受信料を財源とする公共放送NHKと、広告収入または有料放送収入を財源とする民間放送が切磋琢磨し、それぞれの特色を生かして、優れた放送をすることが期待されています。なお、NHK・民放とは別に、放送大学学園が放送大学の教育に必要な放送を行っています。

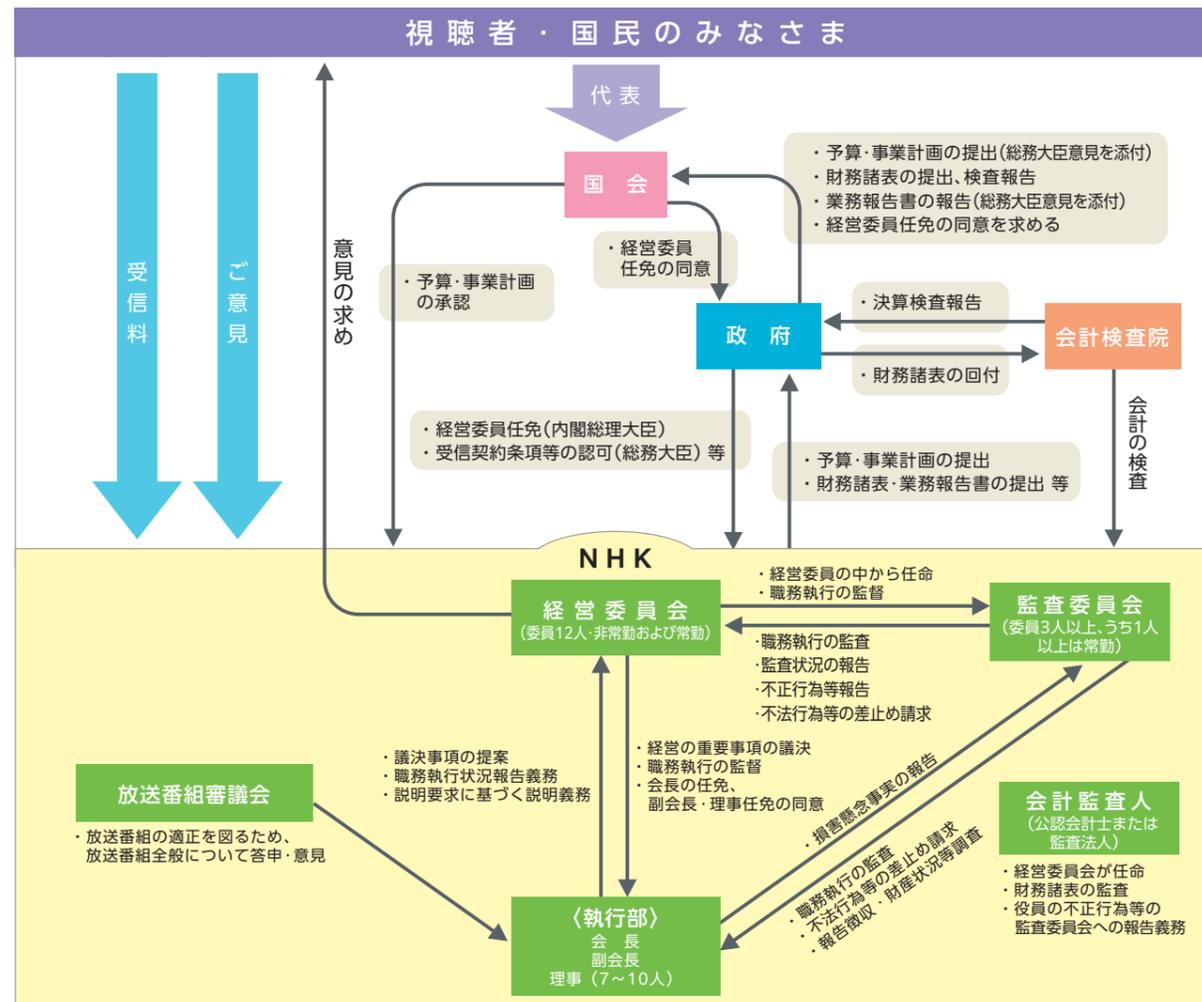
NHKのしくみ

NHKは、1925(大正14)年3月22日に日本で初めて放送を行った社団法人東京放送局などを母体として設立された社団法人日本放送協会が、1950(昭和25)年に放送法に基づく公共放送として再出発したものです。放送法では、NHKが公共放送としての使命を果たすために必要な基本事項についても定めています。その大きな特徴は、NHKの仕事とそのしくみについて、NHKの自主性が極めて入念に保障されていることです。

事業運営の自主性とコーポレート・ガバナンス

NHKの事業運営の自主性を保ちながら、受信料をお支払いいただいている視聴者・国民のみなさまのご意見がNHKの経営に適切に反映されるよう、NHKの事業運営は下図のようなしくみで行われています。

- 国会を中心とした手続きが定められています
- 会長の任免や経営方針など重要事項の決定は、経営委員会が行います
- NHK自身でも、適正、的確に業務を行うためのさまざまな取り組みを行っています



番組編集の自主性

放送法は、「放送番組は、法律に定める権限に基づく場合でなければ、何人からも干渉され、又は規律されることがない。」と、放送番組編集の自由をはっきり保障しています。その上で、放送法は、番組編集に関する一定のルールを設け、放送事業者に対し自律的な取り組みを求めています。番組編集にあたって守るべきルールとしては、国内放送事業者共通の規定に加え、NHKのみに関する規定があります。NHKは、より高い公共性を求められる機関であることを強く認識し、豊かで良い放送番組作りに努めています。

〈国内放送を行う事業者に求められているもの〉

- ① 公安および善良な風俗を害しないこと
- ② 政治的に公平であること
- ③ 報道は事実をまげないですること
- ④ 意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること

2. 教養、教育、報道、娯楽番組の相互の間の調和を保つこと  
(基幹放送事業者の場合) など

〈上記に加え、NHKに求められているもの〉

1. 豊かで、かつ、良い放送番組の放送を行うことによって公衆の要望を満たすとともに文化水準の向上に寄与すること
  2. 全国向けのほか地方向けの放送を行うこと
  3. 過去の文化の保存、新しい文化の育成と普及に寄与することなど
- また、放送事業者は、自ら番組編集の基準を定めて公表し、それによって、自己の放送を律するよう求められています。NHKは、これを受けて、「日本放送協会国内番組基準」「日本放送協会国際番組基準」を定め、番組編集の基準としています。さらに、放送番組の適正を図るために放送番組審議機関を設置することとされています。NHKでは、中央、各地方、国際の放送番組審議会を設け、番組作りに生かしています。

財政の自立性

NHKが自主性を守っていくためには、財政の自立を必要とします。これを実現するのが受信料制度です。NHKの運営財源である受信料は、テレビを設置されて

いる方に公平に負担していただくように放送法で定められています。詳しくは「受信料制度」の項(28~29ページ)をご覧ください。

経営委員会

経営委員会は、役員職務の執行を監督し、NHKの経営に関する基本方針、業務の適正を確保するための体制整備や、収支予算・事業計画、中期経営計画、収支決算、放送番組の編集に関する基本計画、受信契約の条項や受信料の免除基準などを議決するNHKの最高意思決定機関です。会長を任命するほか、会長が行う副会長および理事の任命に同意を与えるなどの権限を持っています。

経営委員会は、執行部に対する目標管理・業績評価を行い、評価結果を処遇に反映させるなど、会長以下の執行部に対するガバナンスを強化し、監督を十全に行っています。さらに、権限の適正な行使に資するよう、経営委員が視聴者のみなさまから直接ご意見を伺う「視聴者のみなさまと語る会」をオンラインによる実施を含め全国各地で年6回以上開催するとともに、中期経営計画等を議決しようとする場合には、広く一般のご意見を求めています。

経営委員会は12人の委員で構成されています。委員は、公共の福祉に関し公正な判断ができ、広い経験と知識を有する者の中から、教育・文化・科学・産業その他の分野および全国各地が公平に代表されることを考慮し、衆・参両議院の同意を得て、内閣総理大臣が任命します。任期は3年です。

経営委員会では、透明性を確保し、視聴者のみなさまへの説明責任を果たすため、議事録を公表するなど、活動内容をホームページでお知らせしています。

監査委員会

監査委員会は、経営委員を含む役員職務の執行を監査する権限があり、役員や職員に対して、職務執行に関する事項の報告を求め、協会の業務や財産の状況を調査することができます。

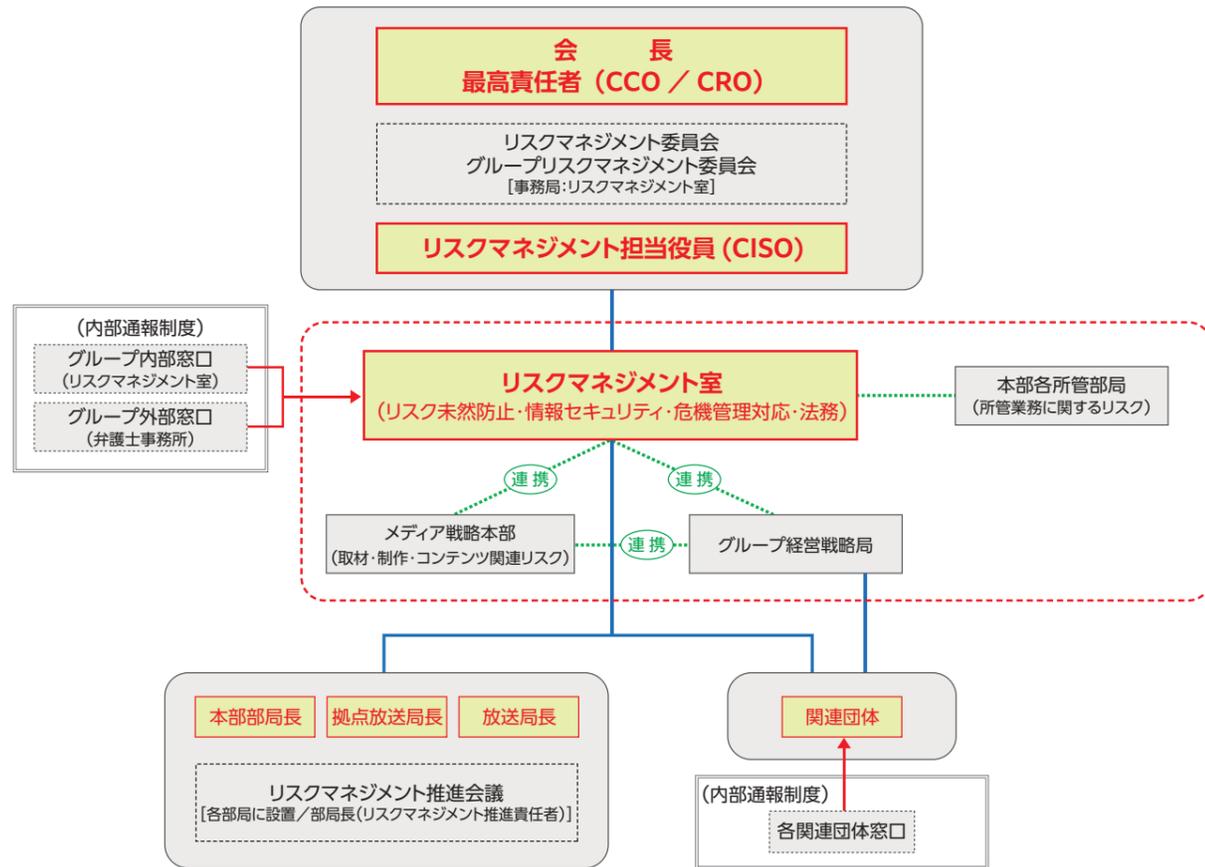
現在、監査委員会は、経営委員の中から任命された常勤1人、非常勤2人の計3人の委員で構成され、定期的に監査委員会を開催し、経営委員会に活動内容を報告しています。

## リスクマネジメントの推進

リスクマネジメントの取り組みは、NHKの組織や業務のあり方をしっかりと管理し、公共放送として視聴者のみなさまに信頼していただくための組織風土づくりに欠か

せないものです。これまで進めてきた業務改善の経緯を踏まえ、時代や社会環境の変化に応えながら、職員の倫理意識の徹底と、さらなる組織・業務改革に取り組みます。

### コンプライアンスとリスクマネジメント推進体制



### コンプライアンス意識の徹底

NHK役職員は、公共放送の使命と社会的責任を深く自覚して、誠実に職務を遂行していきます。

2004年9月に、NHK役職員の行動の基本となる「NHK倫理・行動憲章」「行動指針」を制定し、毎年、全役職員がその内容を確認し誓約しています。視聴者のみなさまの信頼を損なうような経験を忘れることなく、一人ひとりの心の中にコンプライアンス意識を根づかせる不断の努力を続けます。

職員等へのコンプライアンス研修では、業務管理のポイントやリスク事例を具体的に示しながら意識啓発に努めていくほか、コンプライアンス推進強化月間を設け、各職場での勉強会を行うなど、コンプライアンスの徹底を図っていきます。



## 放送倫理の徹底

NHKは放送の自主・自律を堅持し、正確で公平・公正な情報や、豊かで質の高い放送を提供するよう努めています。その土台となっているのは、放送法やNHKが定めた番組基準、さらには放送ガイドラインです。放送ガイドラインは、NHKの放送に携わるすべての人が取材や番組制作を行ううえで判断の指針とするものです。

放送だけでなく、インターネットの利用拡大やモバイル端末の急速な普及により、不確かな情報が瞬時に拡散する時代になりました。また、マスメディアに対しては、人権の尊重やプライバシーの保護、個人情報の適切な取り扱いも強く求められています。放送倫理の順守はますます重要性を増し、NHKは、研修や現場で放送倫理を順守するよう徹底を図っています。

NHKと民放連は、独立した第三者の立場から、視聴者の意見や苦情を真摯に聞き、放送倫理上の問題を判断してもらうBPOを設立しています。

BPOには、3つの委員会があり、NHKは、BPOから意見や勧告などを受けた場合には重く受け止めて対応しています。

「ニュースウオッチ9」で放送した新型コロナに関連するおよそ1分間の動画について、1つの委員会から「放送倫理違反があった」と指摘されました。

取材・制作のあらゆる段階で真実に迫ろうという基本的な姿勢を再確認し、再発防止策を徹底しています。

### 自主的な情報公開

NHKは、受信料で成り立つ公共放送として、視聴者のみなさまへの説明責任を果たし、事業運営の透明性を確保するため、自主的な情報公開制度により「情報提供」と「情報開示」を行っています。

情報提供については、NHK公開サイトの「経営に関する情報(備え置き公開文書)」ページで、放送法第84条の2第1項および放送法施行規則第55条の2第2項に基づき提供している経営情報のみならず、事業活動全般にわたる多くの情報を自主的に公開しています。

情報開示については、視聴者からの求めに応じて、NHKが業務で保有している文書を個別に開示する「開示の求

め」を受け付けています。手続きの方法や提出いただく所定の用紙のダウンロードは、「情報公開ホームページ」(<https://www.nhk.or.jp/koukai/>)をご覧ください。放送番組編集の自由を確保する観点などから、放送番組の取材・制作・編成に関する文書などは開示の求めの対象外です。また、NHKが行った開示・不開示等の判断について再検討の求めが提出された場合は、第三者機関であるNHK情報公開・個人情報保護審議委員会が客観的・中立的な立場から、NHKの判断を確認し、意見を述べます。NHKは、審議委員会の意見を尊重して、最終的な判断を行います。

### 個人情報の保護

個人情報保護法にのっとり、NHKは、責任体制の明確化や安全管理措置、苦情への対応などを定めた規程を整備するなど視聴者のみなさまの個人情報を適切に取り扱うための取り組みを実施しています。法律の適用が除外されている報道分野などについても、自主的に、安全管理措置や苦情への対応について定め、個人情報が適切に取り扱われるよう、取り組んでいます。

また、視聴者ご本人の個人情報の開示、利用目的の通知の求めなどを受け付ける体制も整備しています。

手続きの方法はNHKオンライン「プライバシーセンターホームページ」(<https://www.nhk.or.jp/privacy/>)をご覧ください。NHKが個人情報の開示をしない、訂正等を行わない等の判断をした場合は、再検討を求めることができます。

## NHKの関連団体について

関連団体は、それぞれの事業分野で公共放送NHKの業務を補完・支援し、NHKとともに豊かで多様な放送文化の創造に努めることを基本的な役割としています。また、NHKの業務の効率的推進により経費の節減を図るとともに、NHKのソフト資産やノウハウを社会に還元し、副次収入等でNHKの財政に貢献することで、視聴者のみなさまの負担の抑制を図っています。NHKは、放送とデジタルの連携、社会・経済構造の変化等、新しい時代に対応できるグループの経営を推進し、NHKと関連団体が一体となって視聴者のみなさまならびに、社会への貢献をより高めていきます。



### NHK関連団体一覧

【子会社（関連事業持株会社を含む）】 2024年4月現在

(株)NHKメディアホールディングス
(株)NHKエンタープライズ
(株)NHKエデュケーショナル
(株)NHKグローバルメディアサービス
(株)NHKプロモーション
(株)NHKアート
(株)日本国際放送
(株)NHKテクノロジーズ
(株)NHK出版
(株)NHKビジネスクリエイト
(株)NHK文化センター
NHK営業サービス(株)

【関連公益法人等】

(一財)NHK財団
(公財)NHK交響楽団
(学)NHK学園
(福)NHK厚生文化事業団
〈福利厚生団体〉
日本放送協会健康保険組合
(一財)日本放送協会共済会

このほか、関連会社が4社あります。

## 全国のNHK

番組などに関するお問い合わせ・ご意見は  
ナビダイヤル **0570-066-066**  
NHKふれあいセンターまで

### 中国地方

広島放送局	(082)504-5111
岡山放送局	(086)214-4700
松江放送局	(0852)32-0700
鳥取放送局	(0857)29-9200
山口放送局	(083)921-3737

### 四国地方

松山放送局	(089)921-1111
高知放送局	(088)823-2300
徳島放送局	(088)626-5970
高松放送局	(087)825-0151

### 九州・沖縄地方

福岡放送局	(092)724-2800
北九州放送局	(093)591-5002
熊本放送局	(096)326-8203
長崎放送局	(095)821-1115
鹿児島放送局	(099)805-7000
宮崎放送局	(0985)32-8111
大分放送局	(097)533-2800
佐賀放送局	(0952)28-5000
沖縄放送局	(098)865-2222

### 東海・北陸地方

名古屋放送局	(052)952-7000
金沢放送局	(076)264-7001
静岡放送局	(054)654-4000
福井放送局	(0776)28-8850
富山放送局	(076)444-6600
津放送局	(059)229-3000
岐阜放送局	(058)264-4611

### 近畿地方

大阪放送局	(06)6941-0431
京都放送局	(075)251-1111
神戸放送局	(078)252-5000
和歌山放送局	(073)424-8111
奈良放送局	(0742)30-0300
大津放送局	(077)522-5101

### 北海道地方

### 北海道地方

札幌放送局	(011)232-4001
函館放送局	(0138)27-0111
旭川放送局	(0166)24-7000
帯広放送局	(0155)23-3111
釧路放送局	(0154)41-9191
北見放送局	(0157)23-4181
室蘭放送局	(0143)22-7271

### 東北地方

### 東北地方

仙台放送局	(022)211-1001
秋田放送局	(018)825-8111
山形放送局	(023)625-9511
盛岡放送局	(019)626-8811
福島放送局	(024)526-4333
青森放送局	(017)774-5111

### 関東甲信越地方

### 関東甲信越地方

放送センター(首都圏)	(03)3465-1111
NHKアーカイブス	(048)268-8807
NHK放送博物館	(03)5400-6900
長野放送局	(026)291-5200
新潟放送局	(025)230-1616
甲府放送局	(055)255-2148
横浜放送局	(045)212-2822
前橋放送局	(027)251-1711
水戸放送局	(029)232-9885
千葉放送局	(043)203-1001
宇都宮放送局	(028)634-9155
さいたま放送局	(048)833-2041

※2024年4月現在の情報です。

# NHK

あなたの声と受信料で公共放送

受信契約のお申し込みや転居のご連絡は…

● パソコン、スマートフォンから

<https://www.nhk-cs.jp/jushinryo/>



● お電話で

フリーダイヤル **0120-151515**

午前9時～午後6時 土日祝日も受付 通話料無料

〒150-8001 東京都渋谷区神南2-2-1

<https://nhk.jp/>